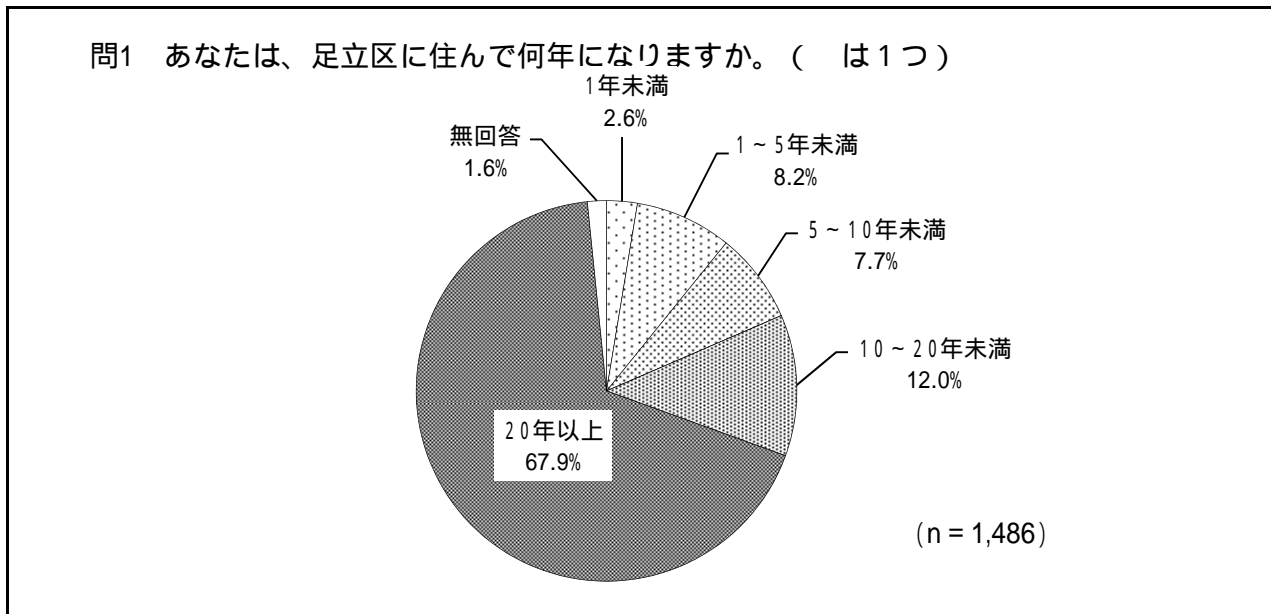


1 定 住 性

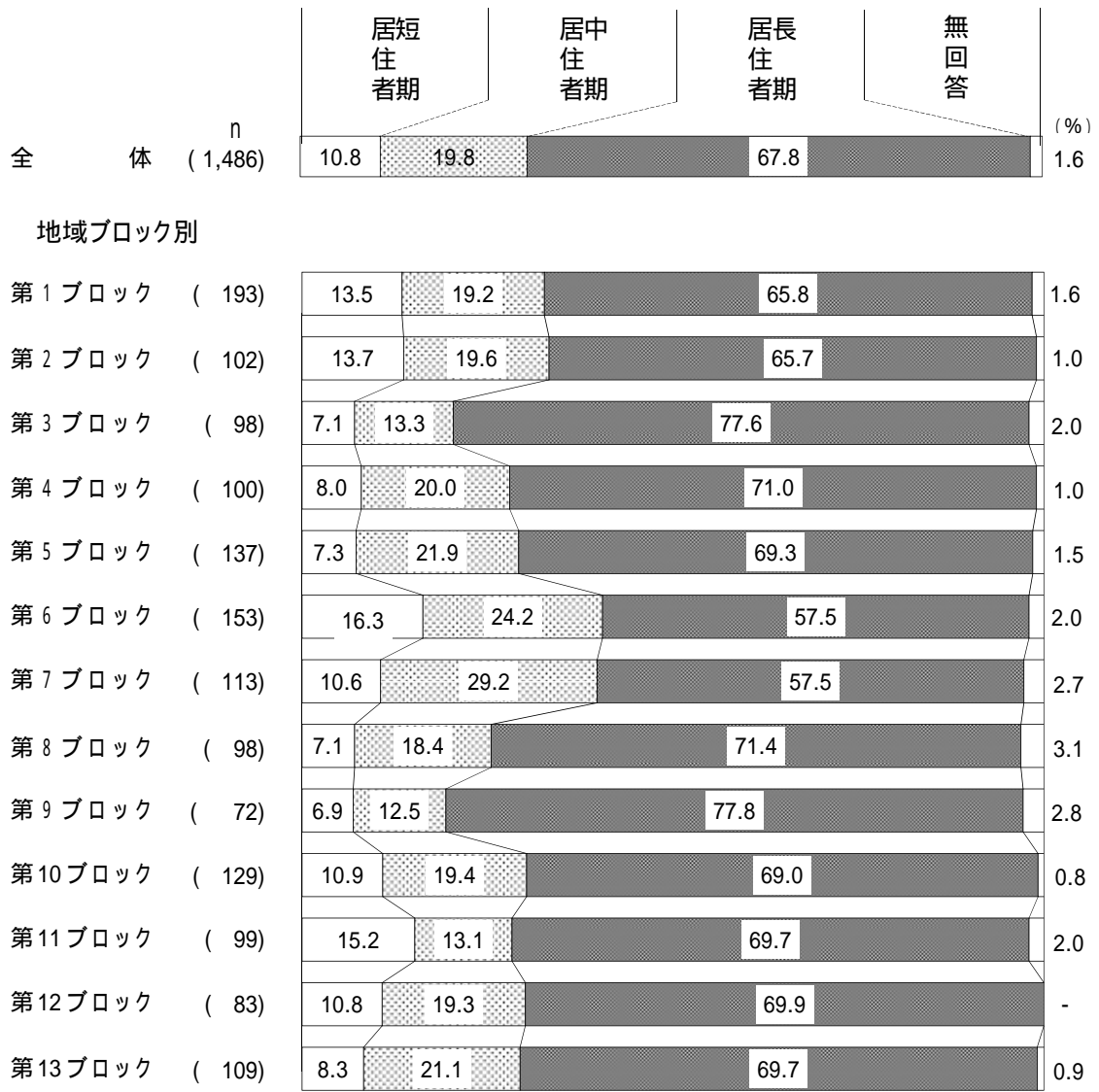
(1) 居 住 年 数

20年以上の《長期居住者》が全体の70%弱を占める



区民の居住年数は、「20年以上」の《長期居住者》が67.8%と全体の70%弱を占めている。次いで5年から20年未満の《中期居住者》が19.7%（「5～10年未満」7.7%、「10～20年未満」12.0%）で、「1年未満」（2.6%）と「1～5年未満」（8.2%）とを合わせた《短期居住者》10.8%の順となっている。

図 1 - 1 - 1 居住年数 (地域ブロック別)



ブロック区分

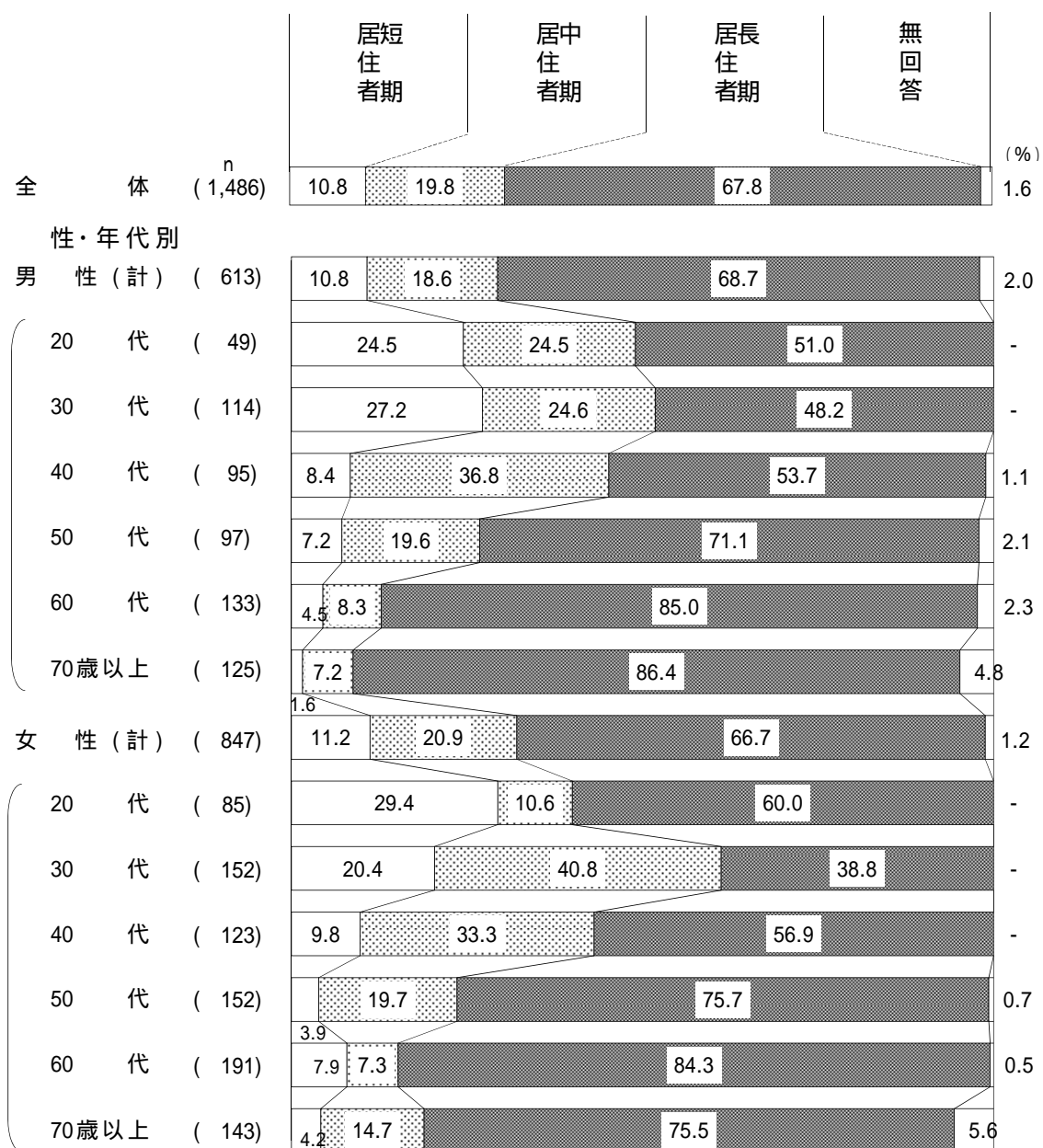


地域ブロック別にみると図1-1-1のとおりである。

第3、第4、第8、第9ブロックでは《長期居住者》が70%を越えて多い。

一方、第6、第7ブロックでは《長期居住者》が50%台でほかと比べて少なく、第6ブロックでは《短期居住者》の割合が16.3%と全ブロックの中で最も多い。

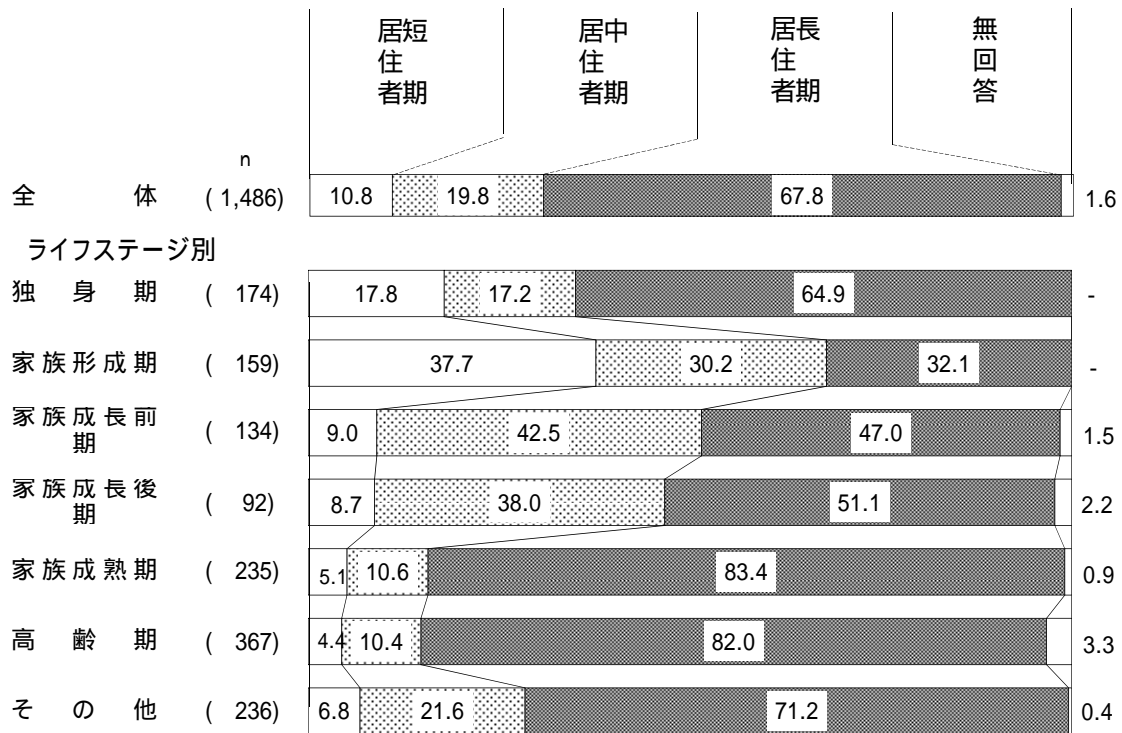
図 1 - 1 - 2 居住年数 (性・年代別)



性・年代別にすると図1-1-2のとおりである。《長期居住者》の割合が80%を超えているのは、男性60代、70歳以上、女性60代である。

《短期居住者》の割合が最も多いのは、女性20代(29.4%)、次いで男性30代(27.2%)、20代(24.5%)の順となっている。

図 1 - 1 - 3 居住年数 (ライフステージ別)



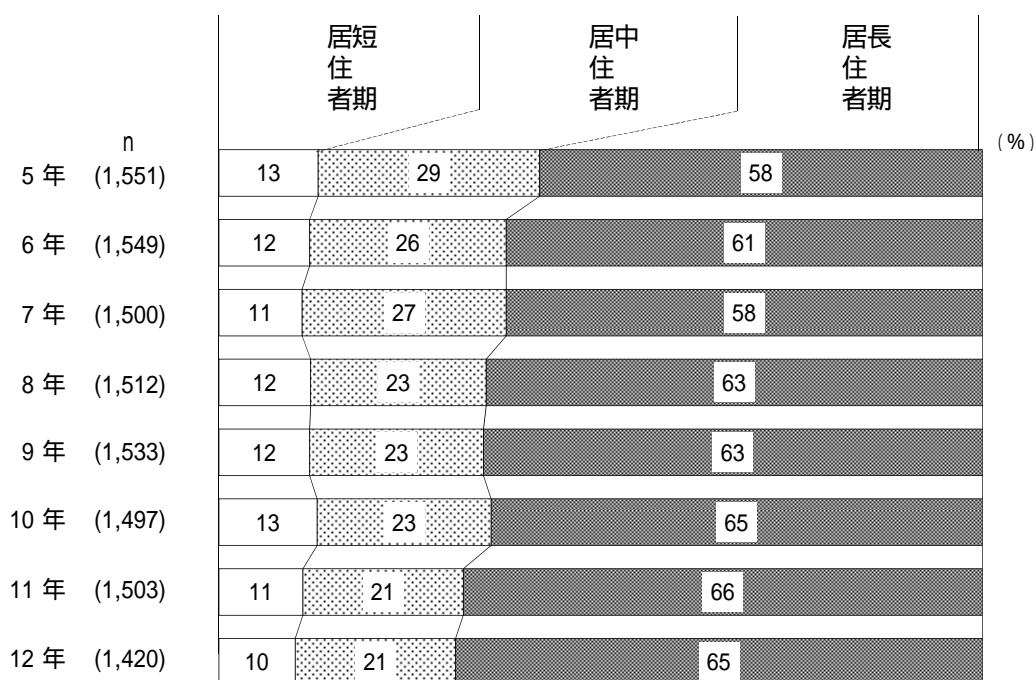
ライフステージ別にみると、図1 - 1 - 3のとおりである。

《長期居住者》の割合が多いのは80%台で家族成熟期で(83.4%)、高齢期(82.0%)である。
 《中期居住者》の割合が比較的多いのは40%前後で家族成長前期(42.5%)、家族成長後期(38.0%)である。

参考 居住年数の推移

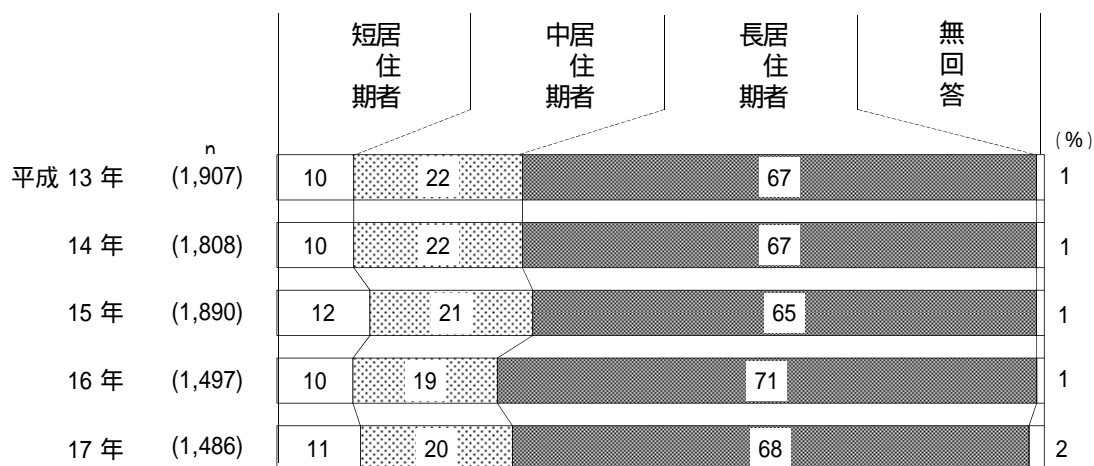
(平成12年まで 訪問面接法)

問 あなたは、足立区に住んで何年になりますか。(は1つ)



(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

問 1 あなたは、足立区に住んで何年になりますか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

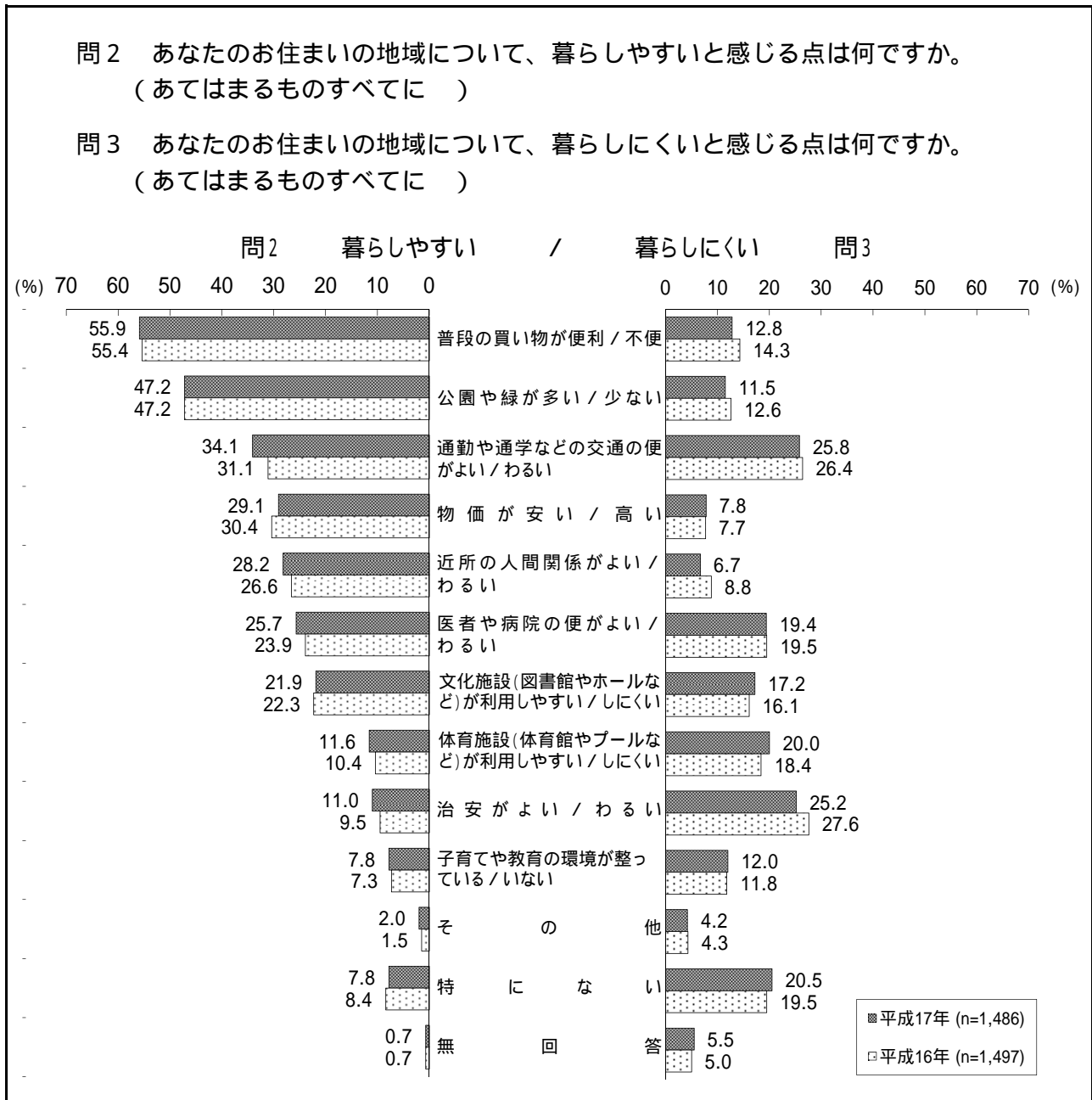


(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(2) 地域の暮らしやすい点、暮らしにくい点

暮らしやすい点は「普段の買い物が便利」が最も多い

暮らしにくい点は「交通の便がわるい」と「治安がわるい」



今住んでいる地域の暮らしやすい点については、「普段の買い物が便利」(55.9%)と最も多く、次いで「公園や緑が多い」(47.2%)、「通勤や通学などの交通の便がよい」(34.1%)、「物価が安い」(29.1%)が比較的上位にあげられている。

一方、暮らしにくい点は、20%台で「通勤や通学などの交通の便がわるい」(25.8%)が最も多く、次いで「治安がわるい」(25.2%)、「体育施設(体育館やプールなど)が利用しにくい」(20.0%)の順となっている。

平成17年の暮らしやすい点の上位4位は平成16年と同様の傾向である。

暮らしにくい点では、平成16年の第1位「治安がわるい」が平成17年では第2位になって2.4%減少している。

平成17年第1位の「通勤や通学などの交通の便がわるい」も平成16年に比べて0.6%減少している。但し、平成17年の第3位の「体育施設（体育館やプールなど）が利用しにくい」では平成16年に比べて1.6%増えている。

地域ブロック別に暮らしやすい点を見ると、図1-2-1のとおりである。

全体で第1位の「普段の買い物が便利」では第4ブロックと第1ブロックが70%台である。

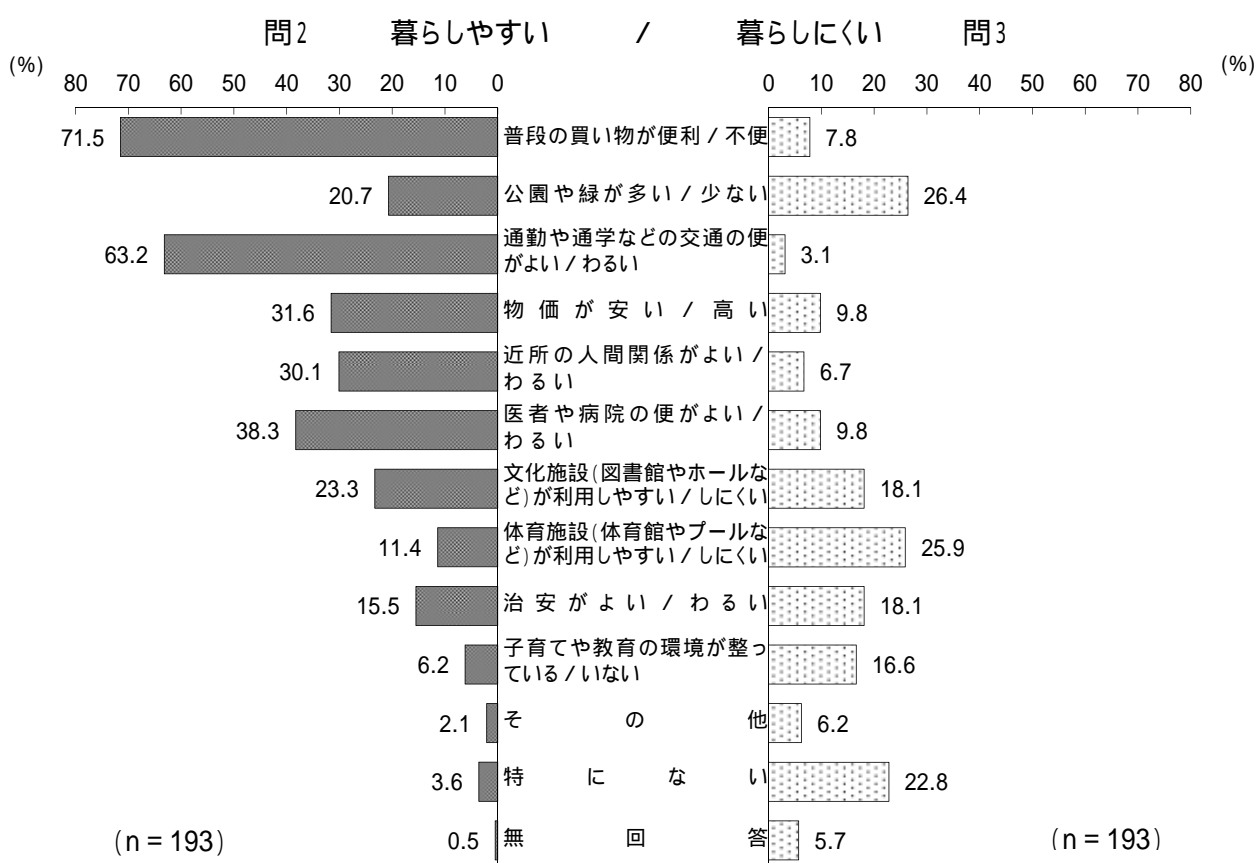
第2位の「公園や緑が多い」では第7ブロックが唯一70%台で最も多い。

第3位の「通勤や通学などの交通の便がよい」では第1ブロックが唯一60%台で最も多い。

暮らしにくい点としては、全体で第1位の「通勤や通学などの交通の便がわるい」が第12ブロック（56.6%）で最も多い。最も少ないのは第1ブロック（3.1%）である。

次いで10%以下の第5、第6ブロックである。第2位の「治安がわるい」では第11ブロックが35.4%で最も多い。

図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点（地域ブロック別）
 < 第1ブロック >



ブロック区分



図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点（地域ブロック別） - つづき -

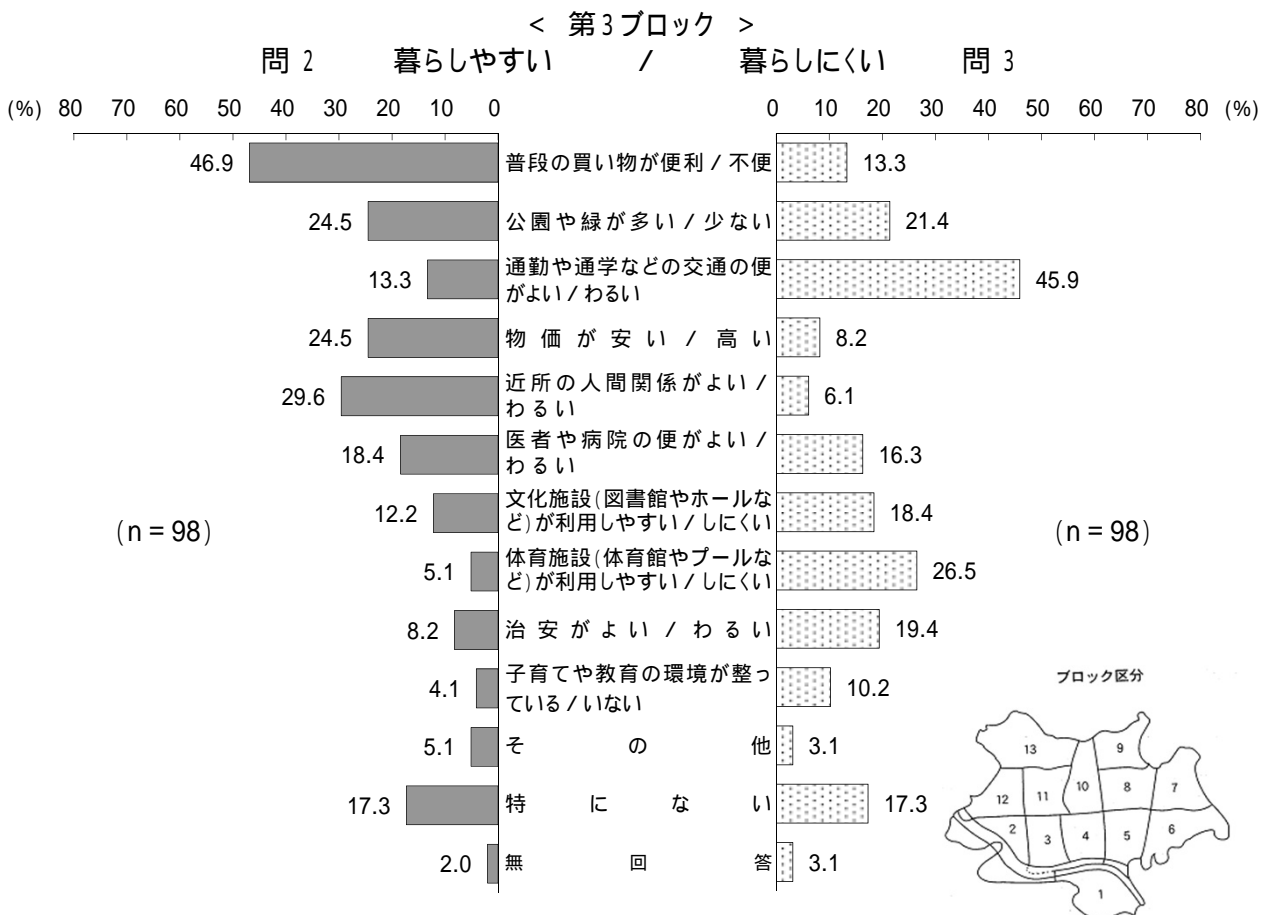
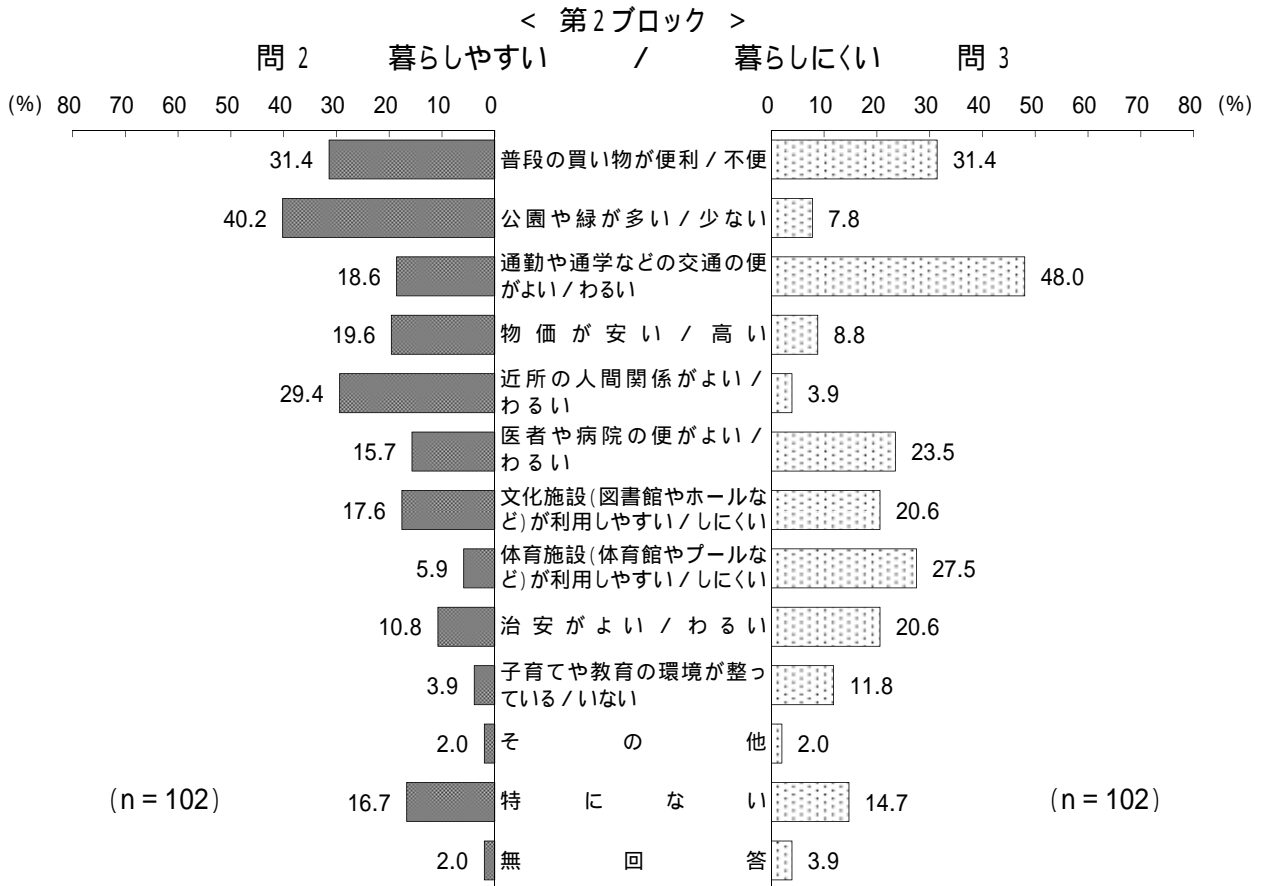


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点（地域ブロック別） - つづき -

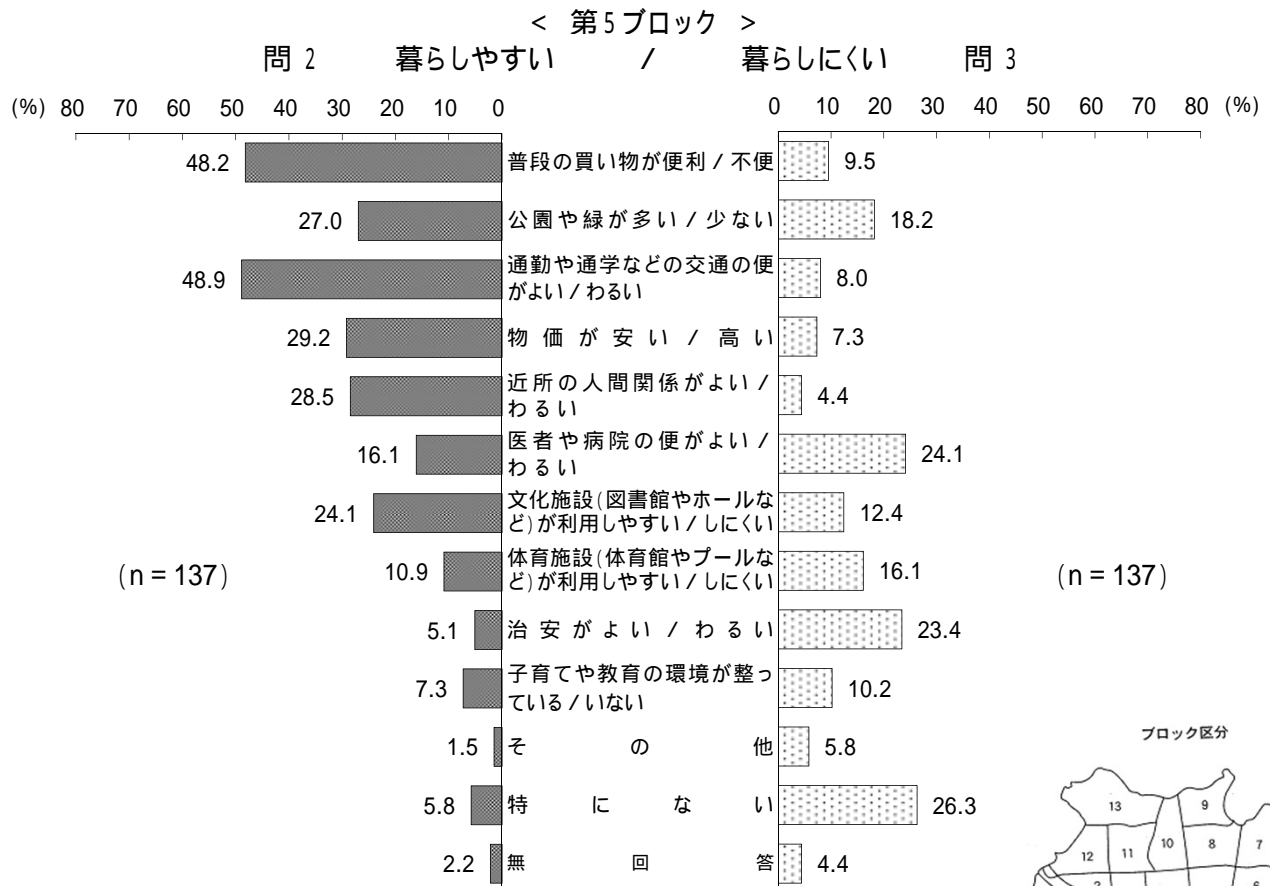
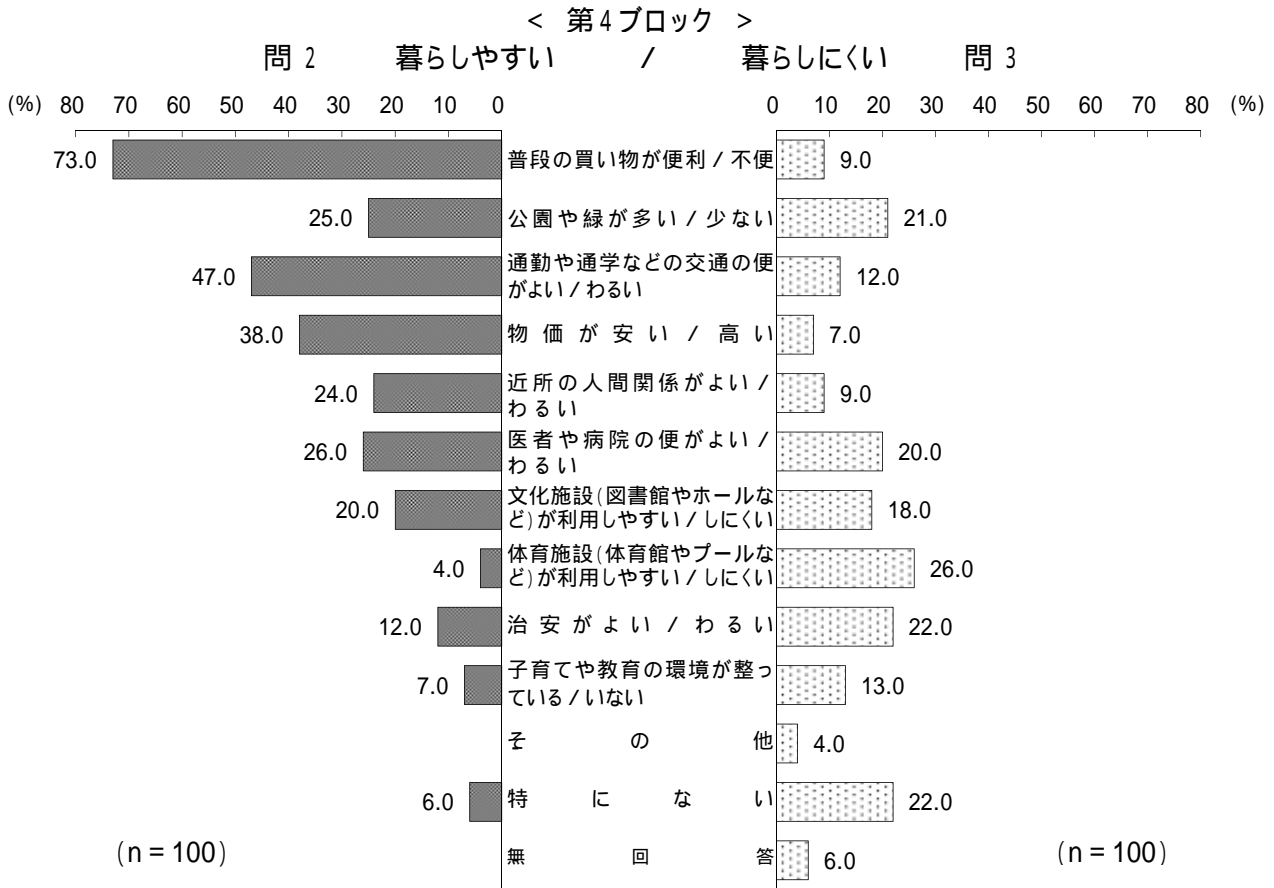


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

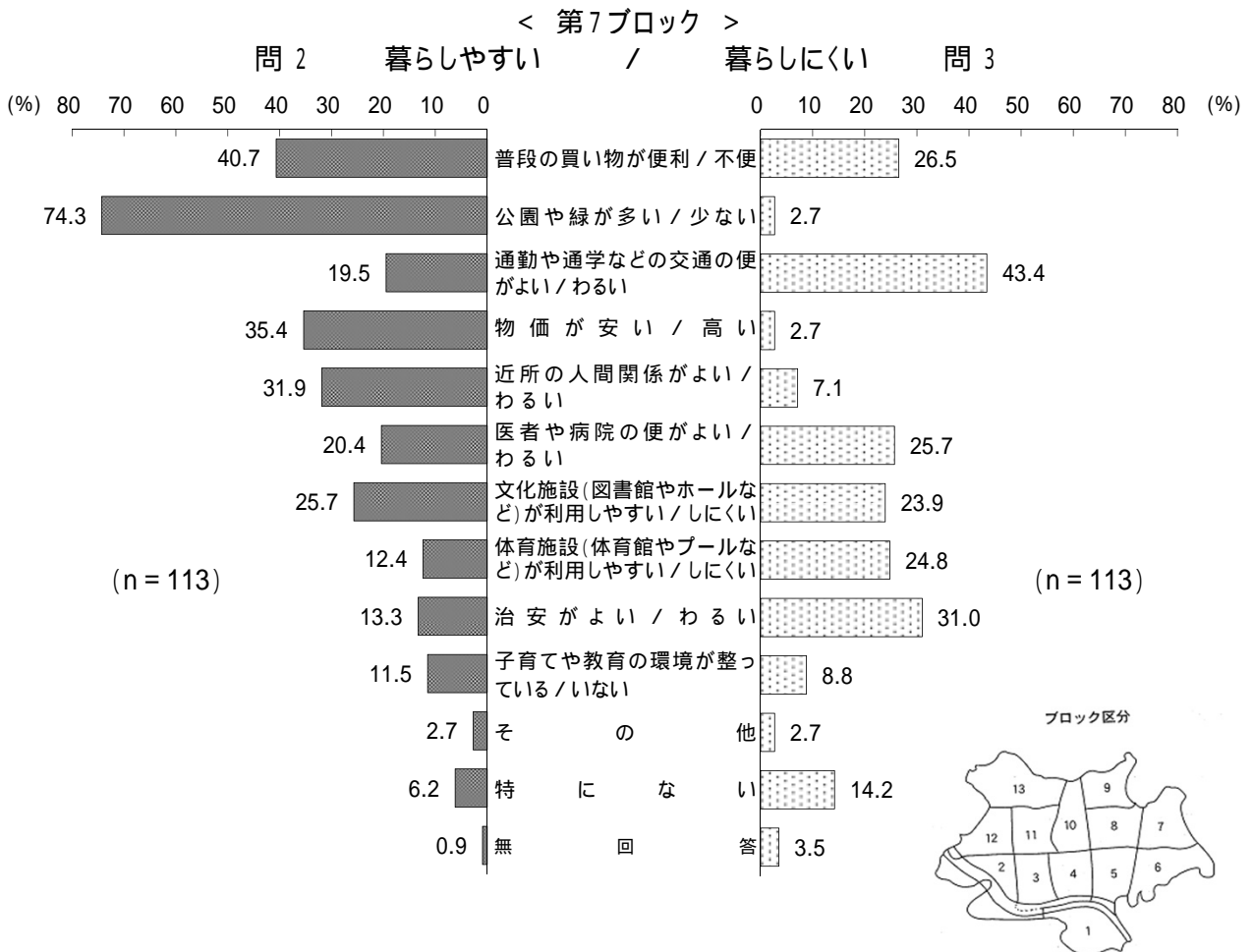
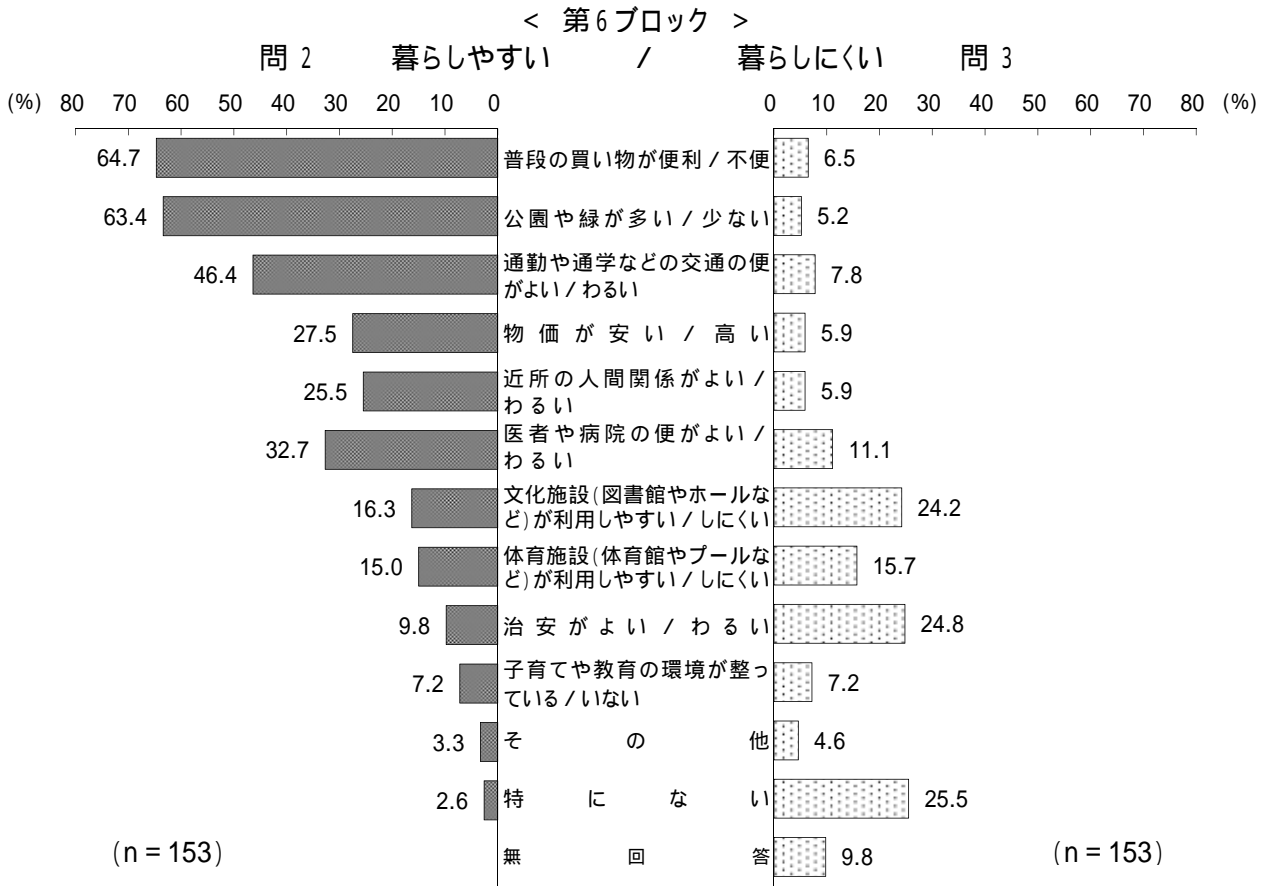


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点（地域ブロック別） - つづき -

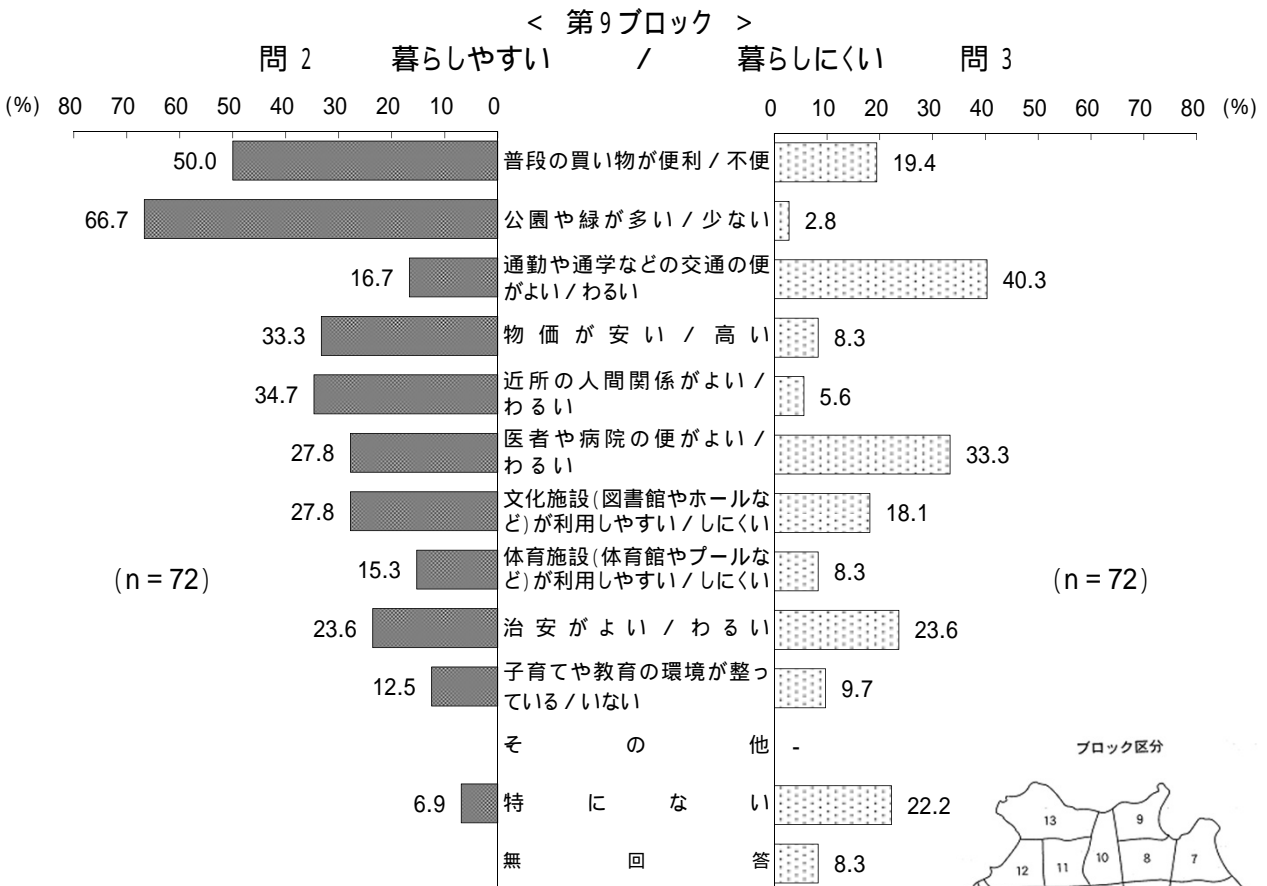
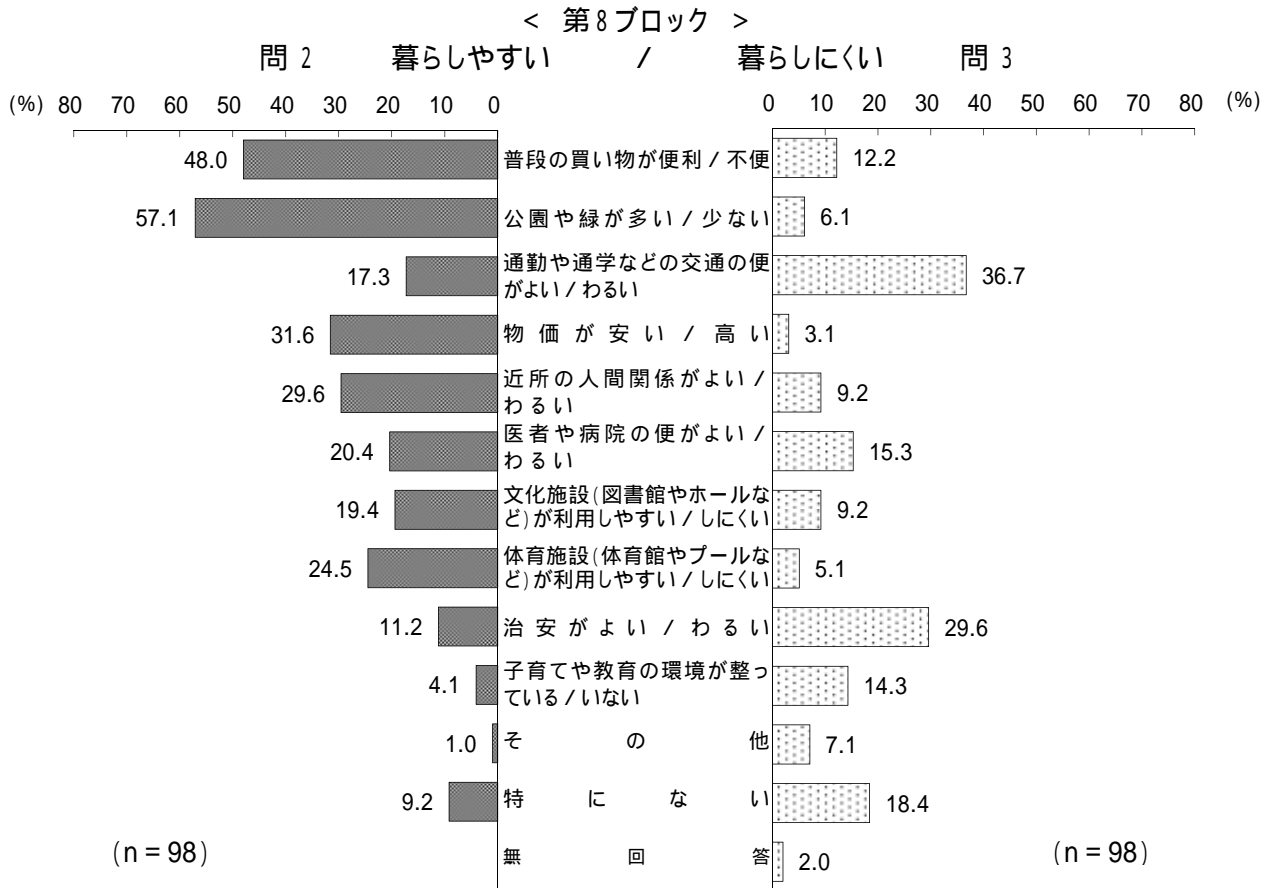


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

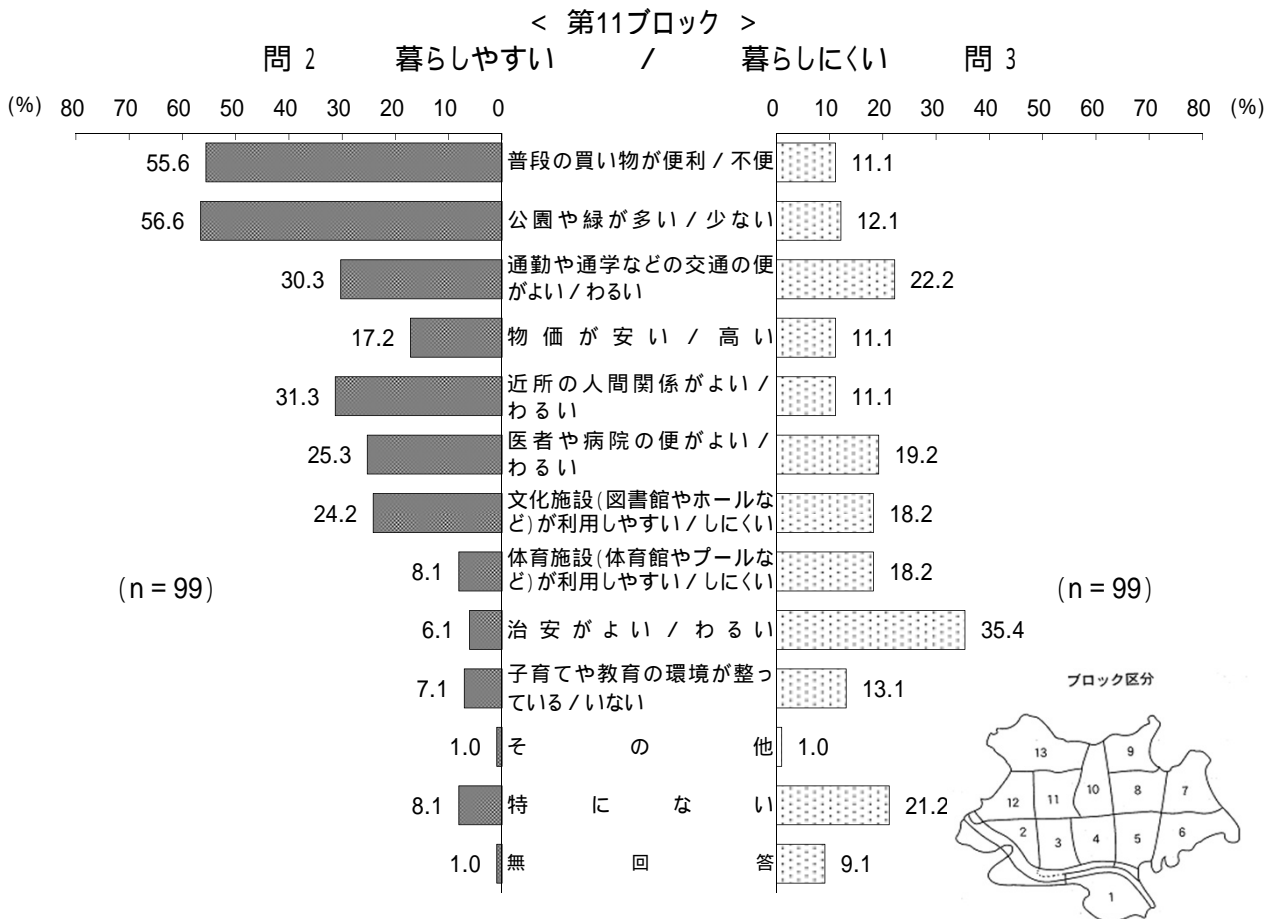
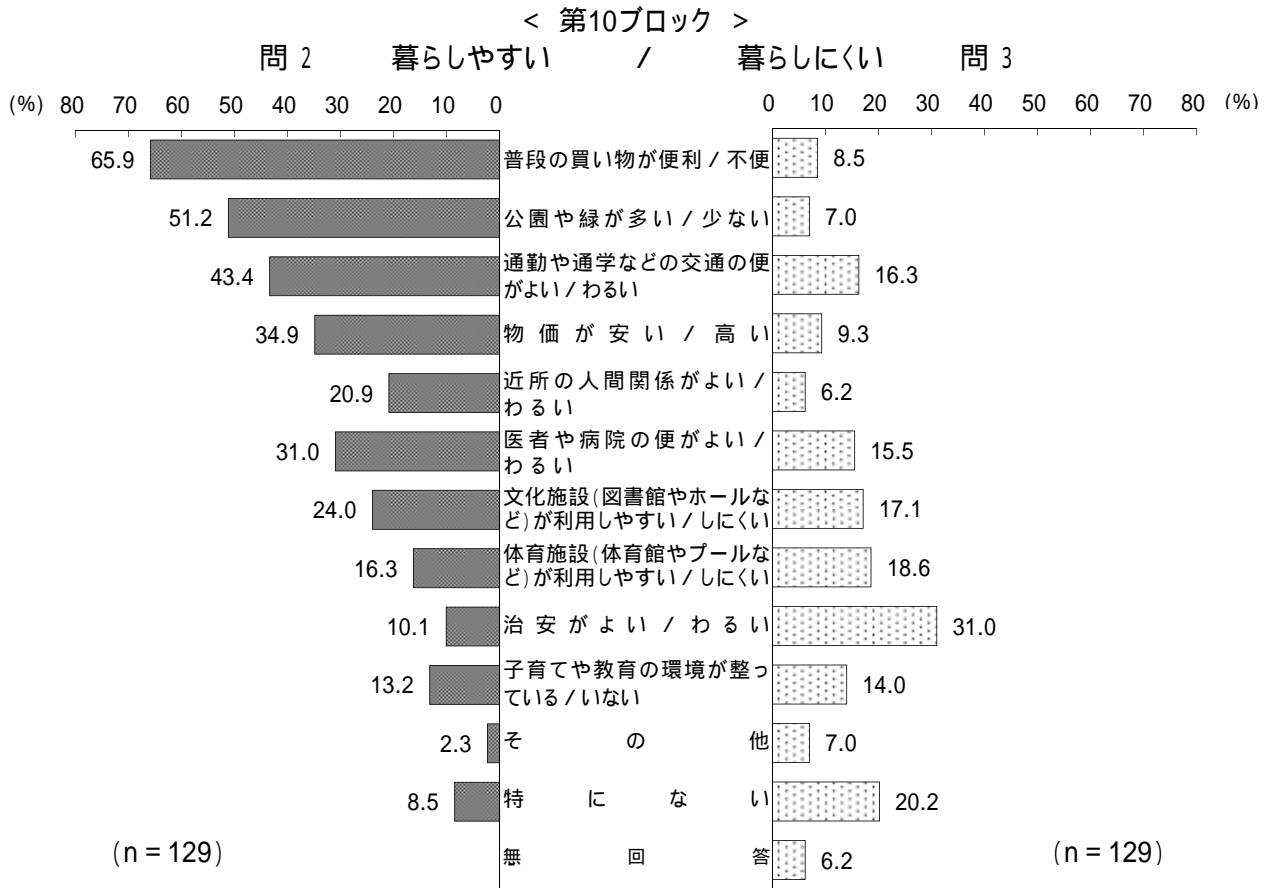
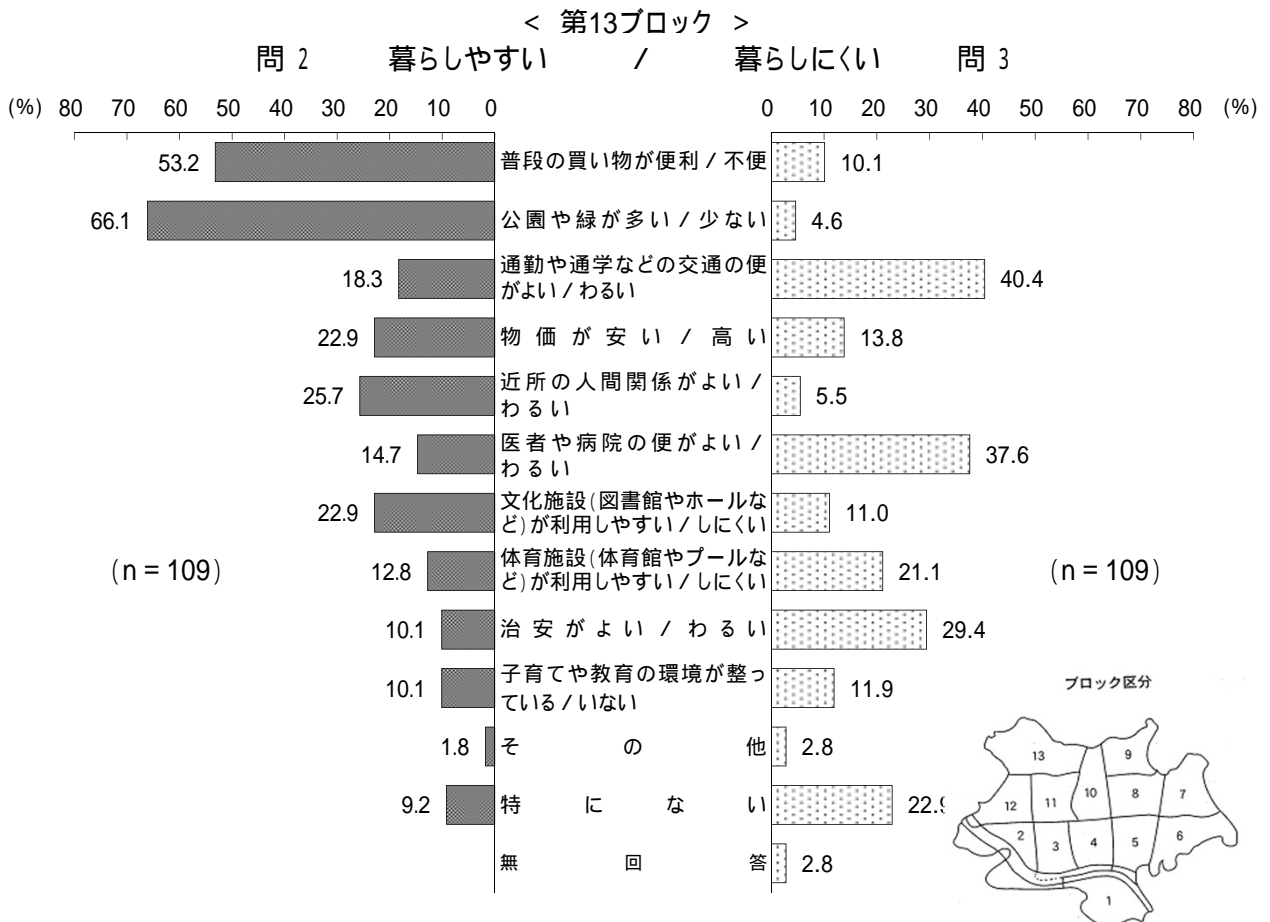
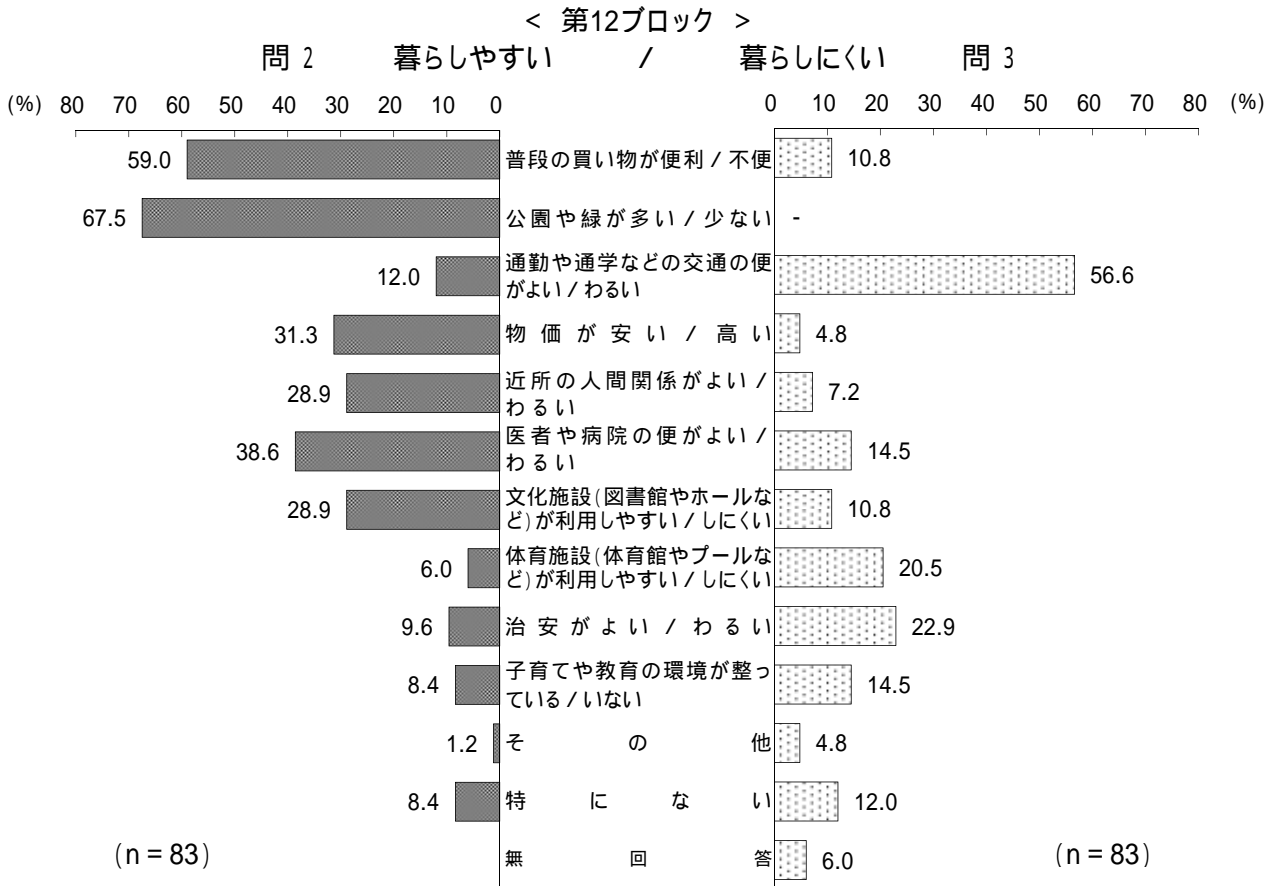


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -



性・年代別に暮らしやすい点をみると、図1-2-2のとおりである。

全体で第1位の「普段の買い物が便利」は60%台で、男性70歳以上、女性50代、60代である。

第2位の「公園や緑が多い」は50%台で、男性50代、70歳以上、女性40代、50代である。

第3位の「通勤や通学などの交通の便がよい」は40%台で、男性20代、30代、40代である。

図1-2-2 暮らしやすい点・暮らしにくい点（性・年代別）

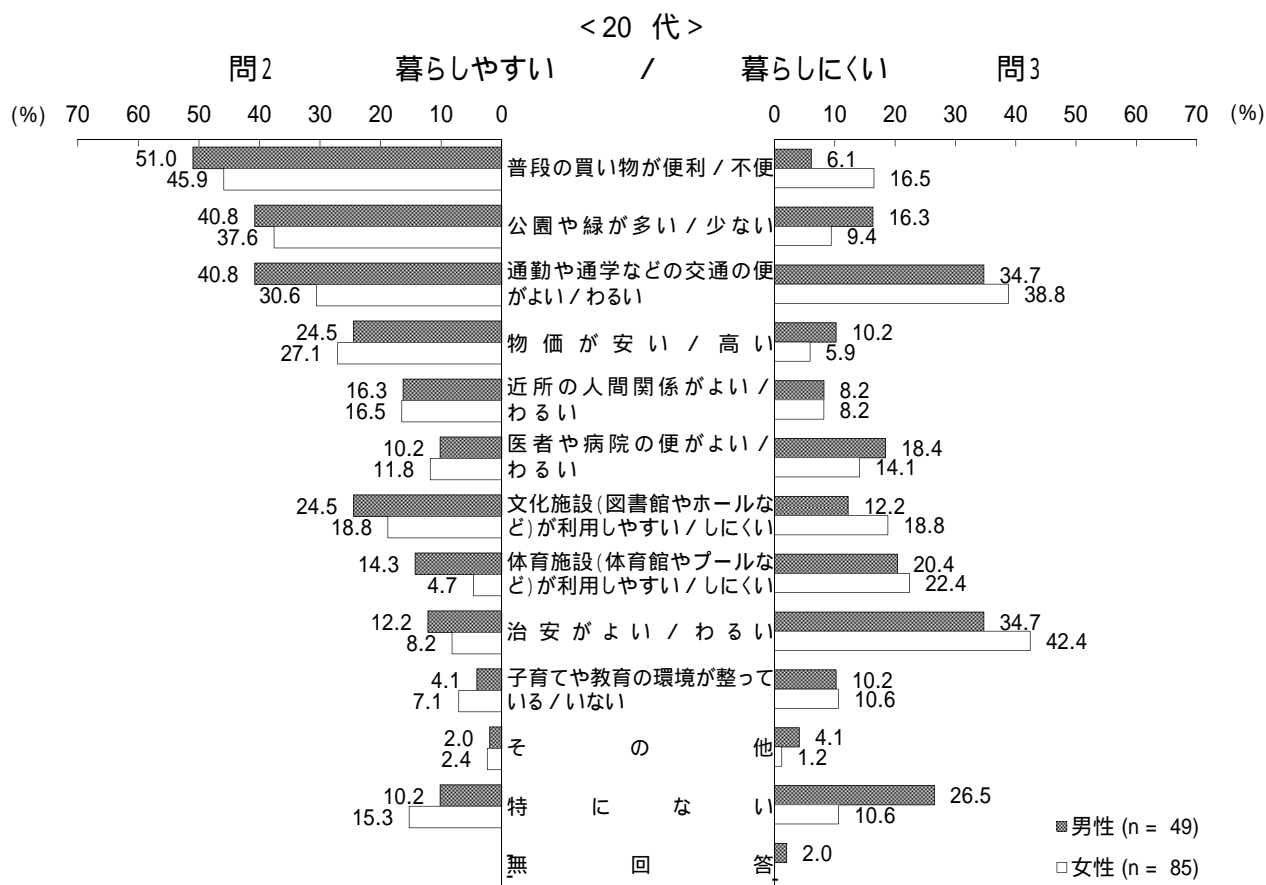


図 1 - 2 - 2 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別) - つづき -

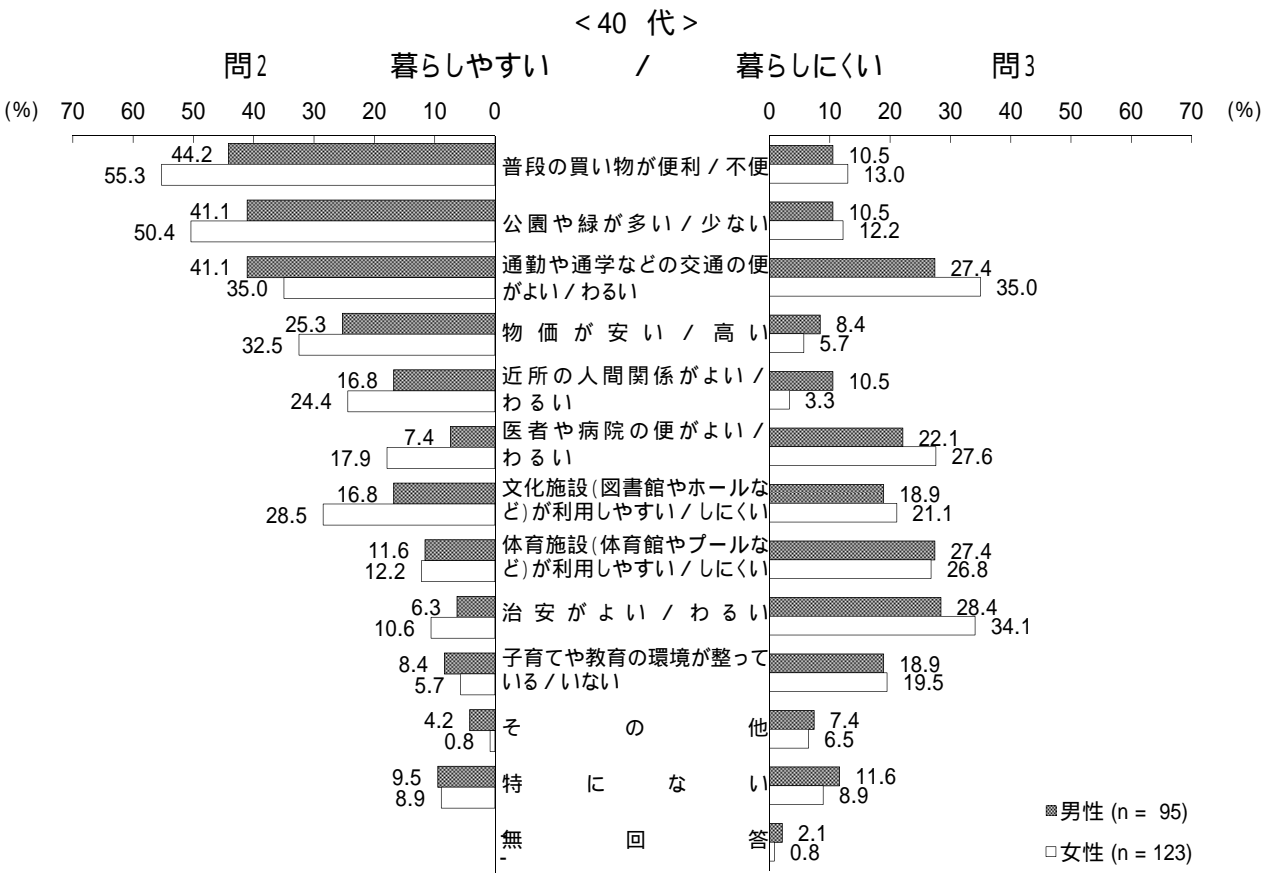
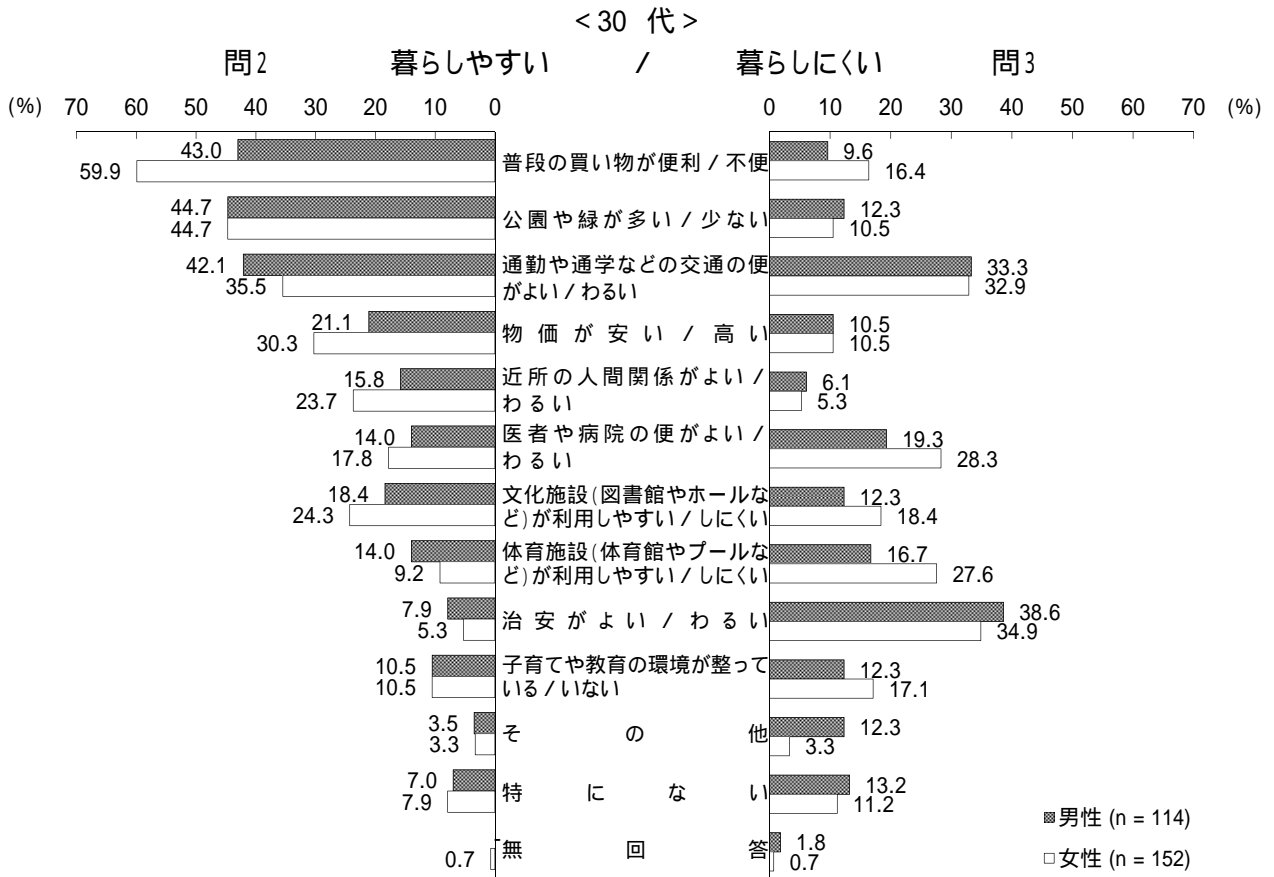


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別) - つづき -

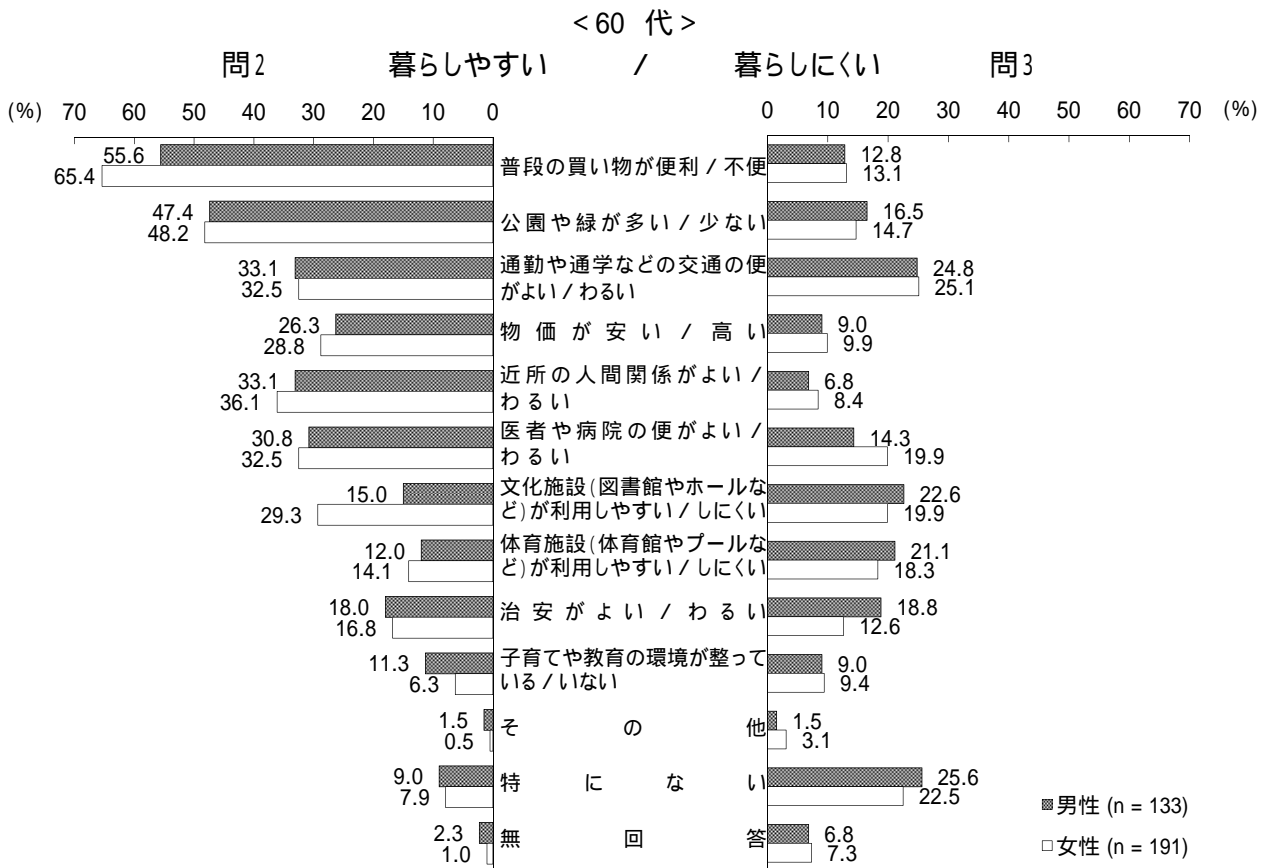
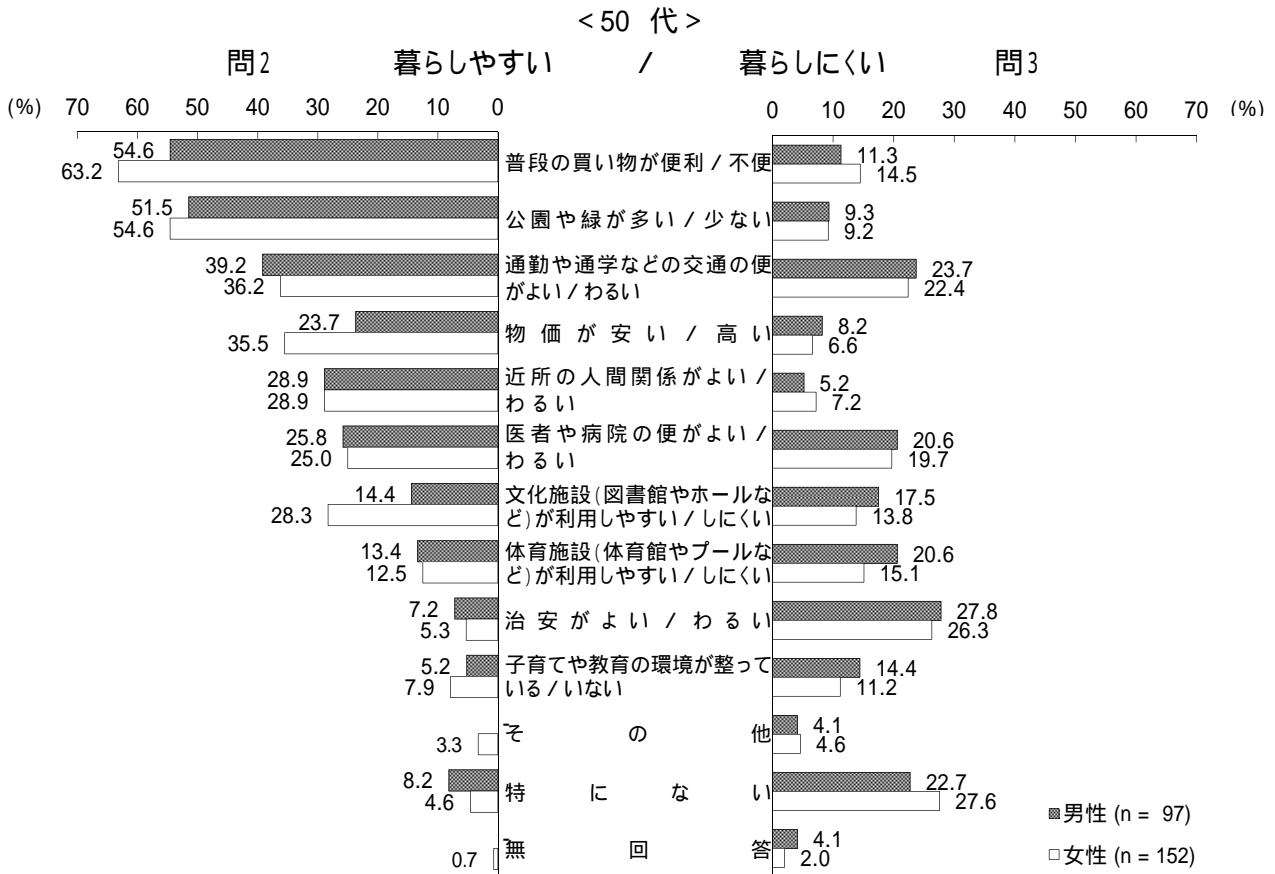
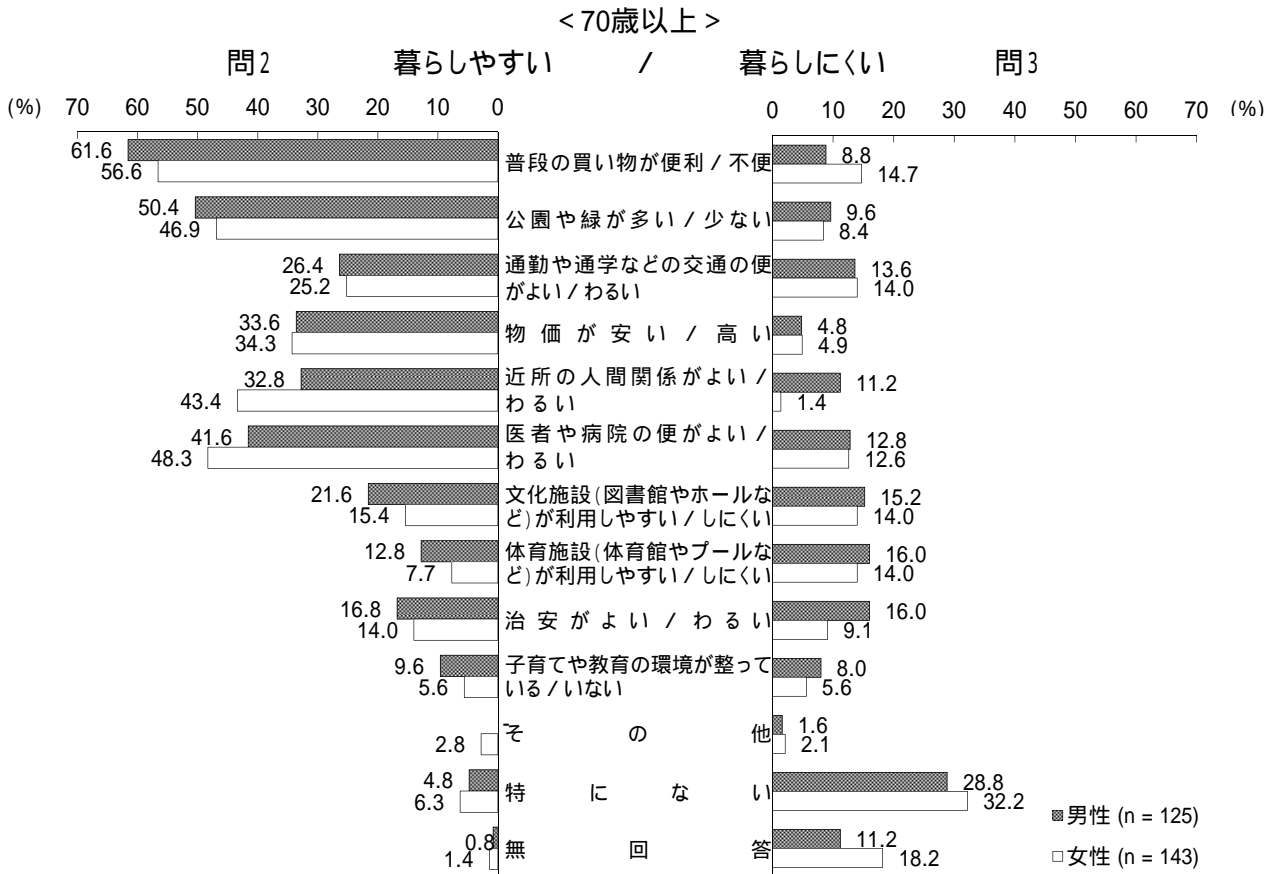
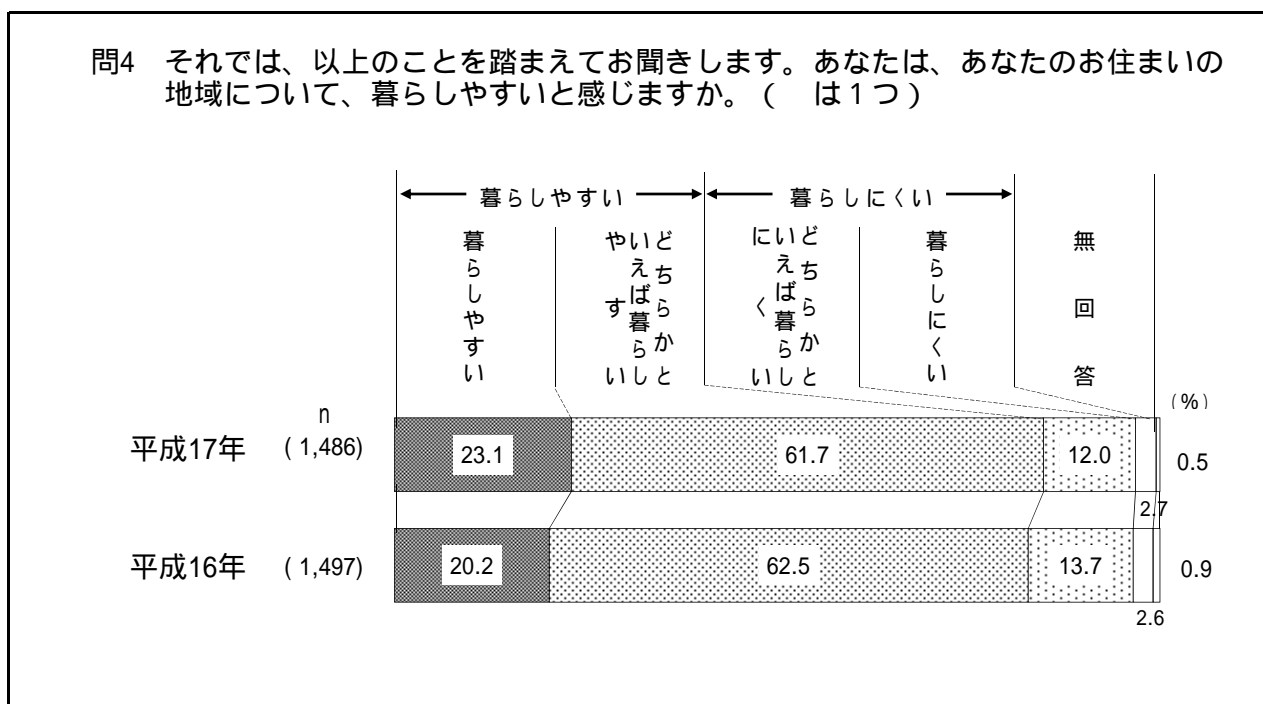


図 1 - 2 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別) - つづき -



(3) 総合的な暮らしやすさ

《暮らしやすい》と感じている人が増えている



今住んでいるところが「暮らしやすい」と感じている人は(23.1)%であり、「どちらかといえば暮らしやすい」(61.7%)と合わせた《暮らしやすい》は全体の84.8%を占めている。一方、「暮らしにくい」(2.7%)と「どちらかといえば暮らしにくい」(12.0%)を合わせた《暮らしにくい》人の割合は14.7%である。

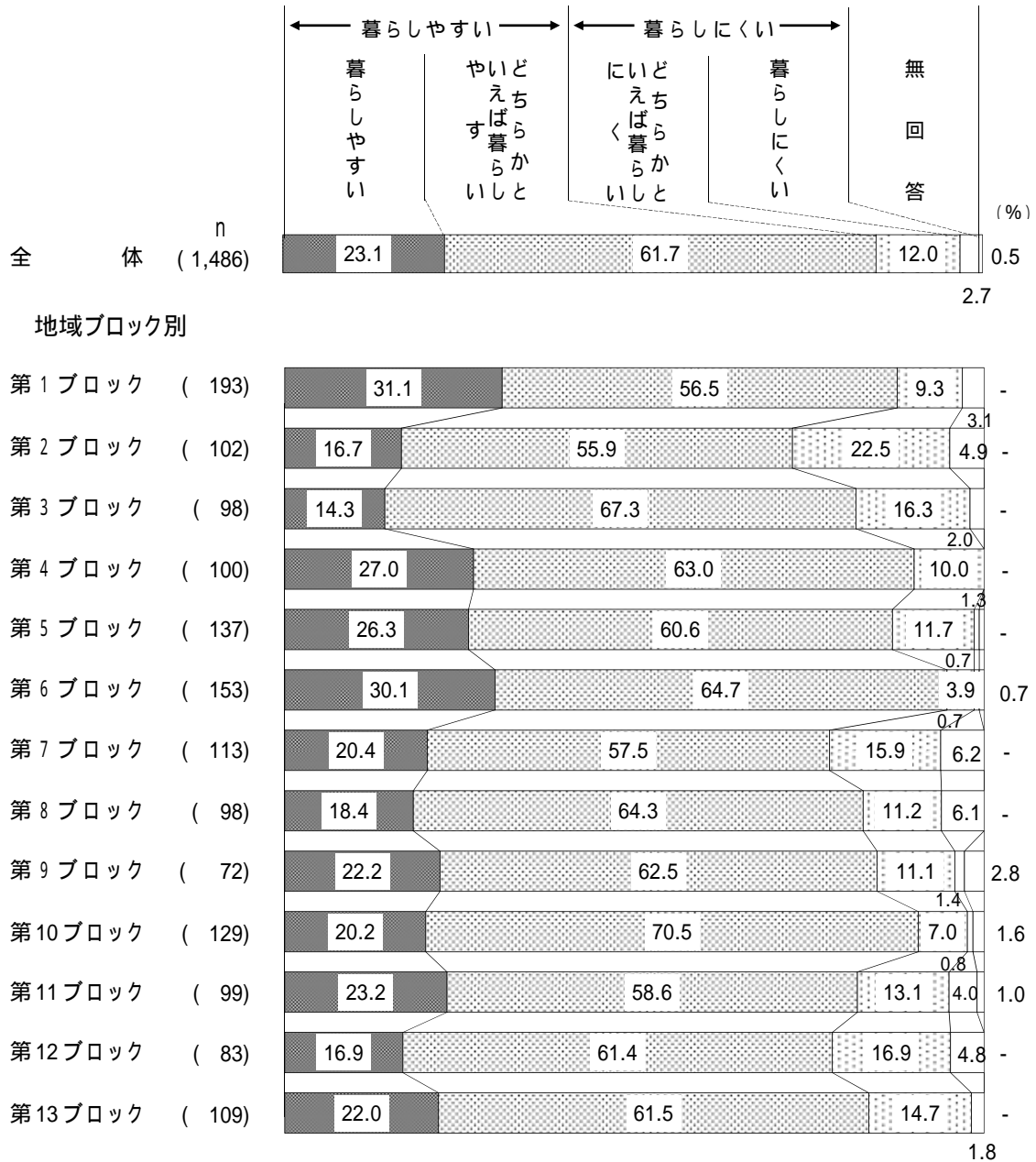
平成16年と比較すると、《暮らしやすい》と感じている人は82.8%から84.8%へ2.0ポイント上昇している。

地域ブロック別にみると、図1-3-1のとおりである。

《暮らしやすい》では、第6、第10、第4ブロックが90%台である。

《暮らしにくい》では、20%台で第2、第12、第7ブロックが比較的多い。

図 1 - 3 - 1 総合的な暮らしやすさ (地域ブロック別)

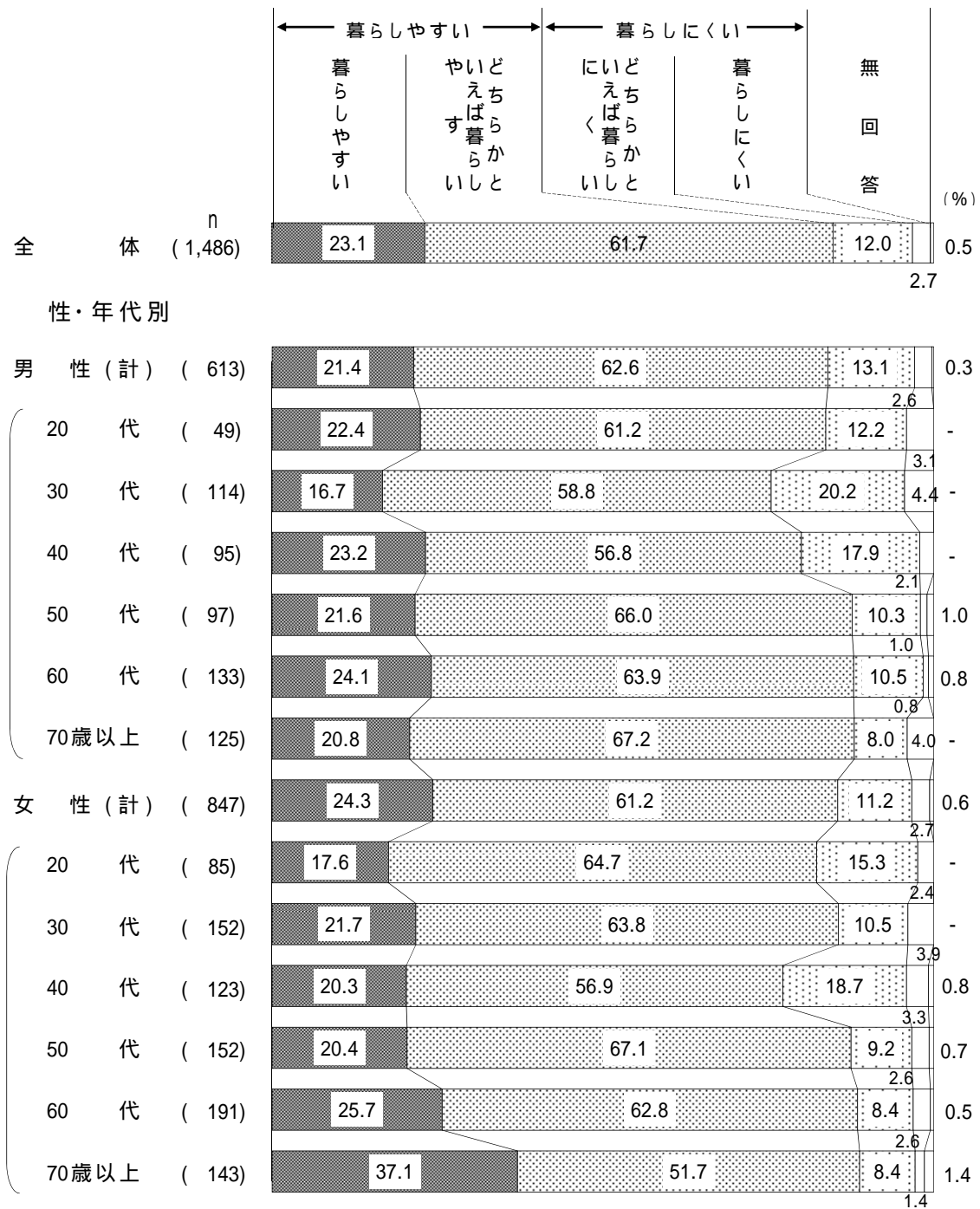


性・年代別にみると図1-3-2のとおりである。

《暮らしやすい》は男性30代、女性40代の70%台を除いて、他の年代は全て80%台である。

《暮らしにくい》は20%台で男性30代、40代、女性40代である。

図 1 - 3 - 2 総合的な暮らしやすさ (性・年代別)



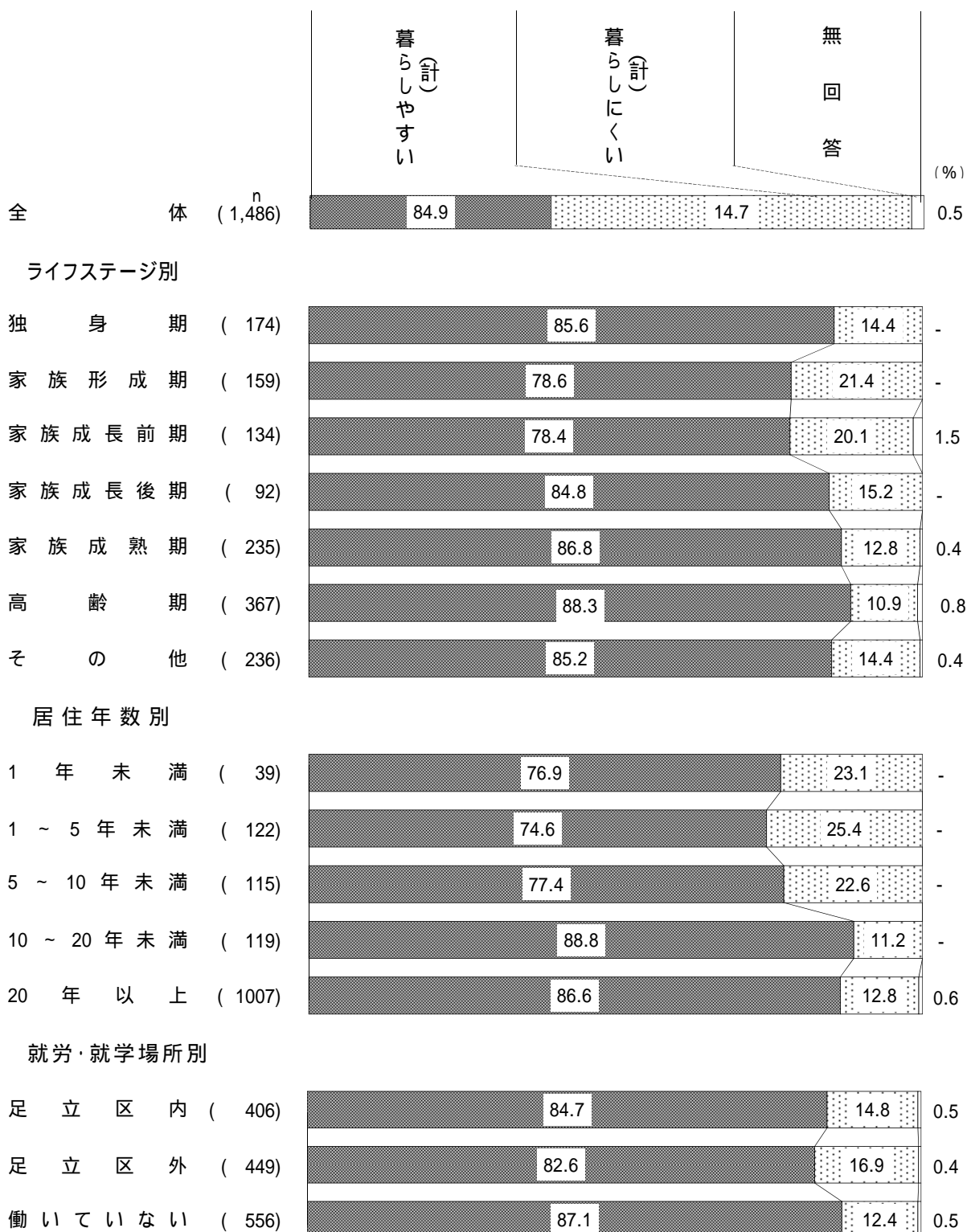
ライフステージ別、居住年数別、就労・就学場所別にみると図1-3-3のとおりである。

ライフステージ別では《暮らしやすい》が「家族形成期」と「家族成長前期」で70%台となっている。（他のライフステージは80%台）

居住年数別では《暮らしやすい》が10年未満では70%台であるが、10年以上になると80%台になる。反対に《暮らしにくい》では10年未満が20%台で10年以上になると10%台になる。

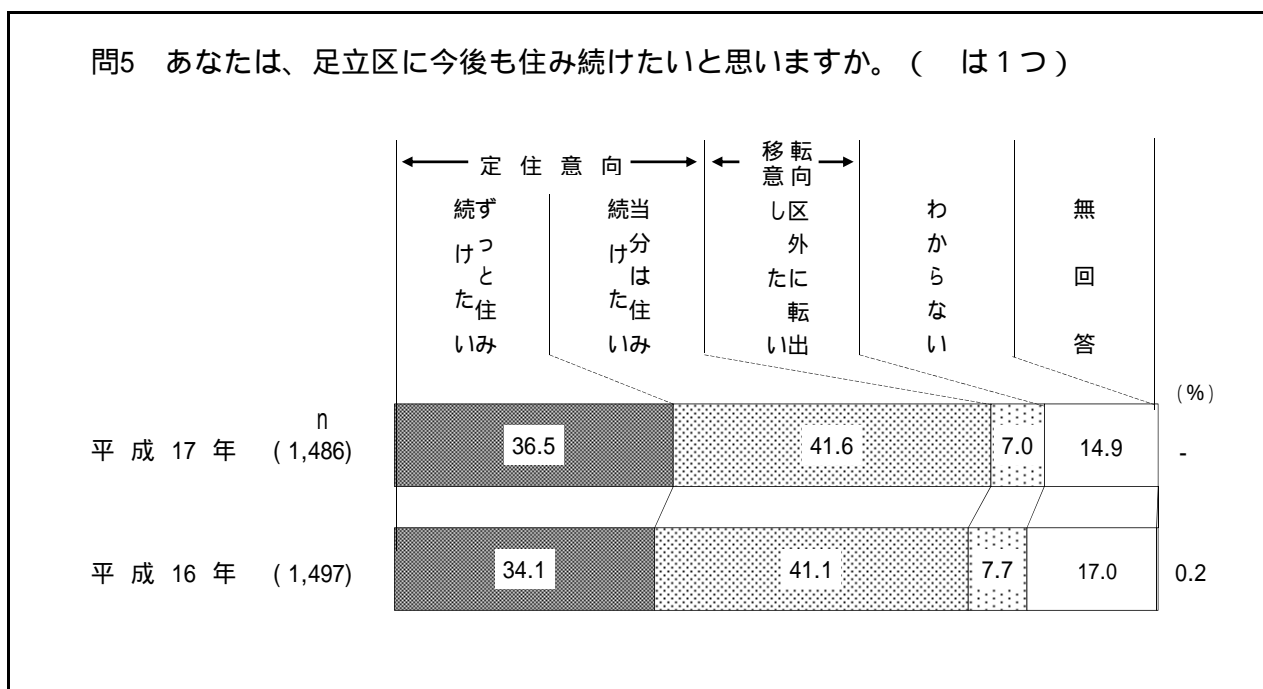
就労・就学場所別では「足立区内」、「足立区外」、「働いていない」ではあまり差がない。

図 1 - 3 - 3 総合的な暮らしやすさ（ライフステージ別、居住年数別、就労・就学場所別）



(4) 定住・移転意向

4人に3人が《定住意向》をもっている



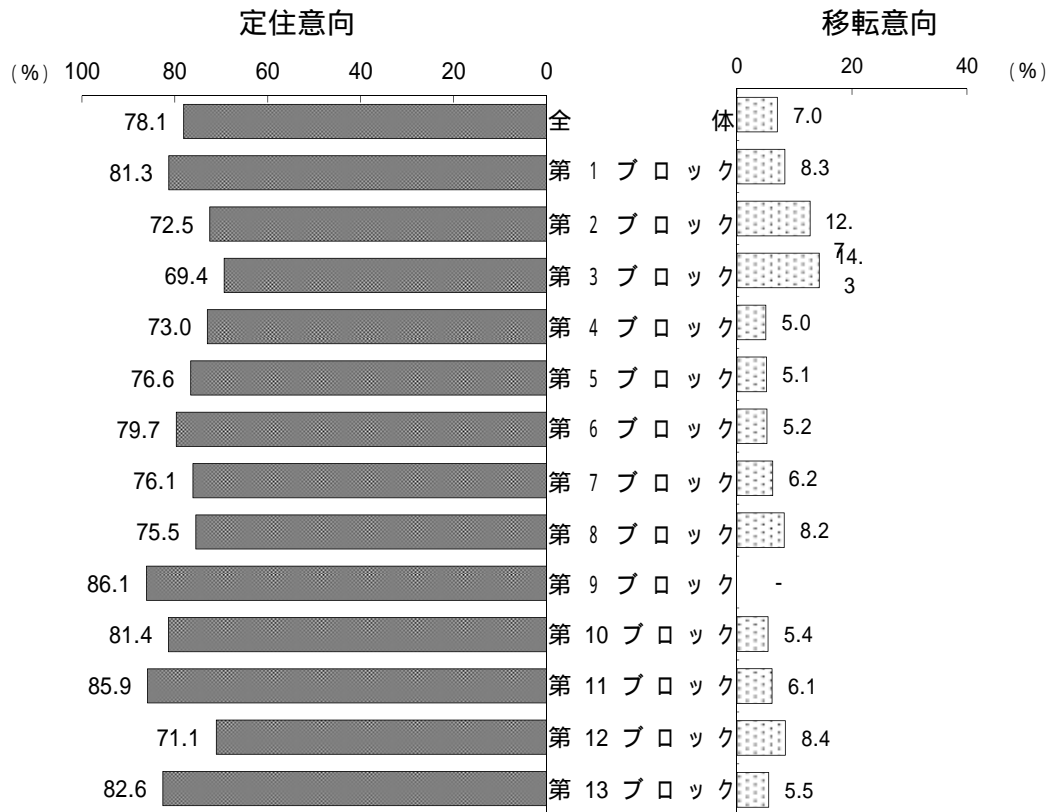
区内に「ずっと住みたい」人は36.5%で、「当分は住みたい」41.6%を合わせた78.1%が《定住意向》をもっている。「区外に転出したい」という《移転意向》をもつ人は7.0%と比較的低率ではあるが、一方で「わからない」と回答した人が14.9%いる。平成16年と比較すると《定住意向》は75.2%から78.1%へ2.9ポイント上昇している。

地域ブロック別に見ると、図1-4-1のとおりである。

《定住意向》が80%台で比較的高いのは、第9、第11、第13、第1ブロックである。

《移転意向》が比較的高いのは、10%台の第2、第3ブロックである。

図 1 - 4 - 1 定住・移転意向 (地域ブロック別)



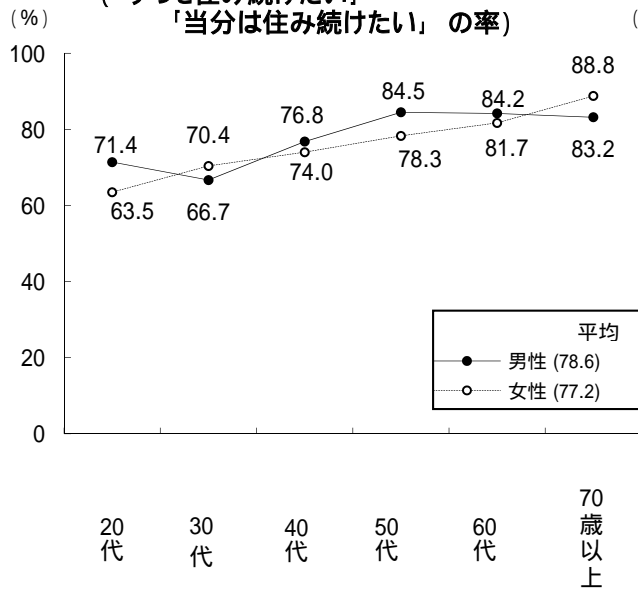
性・年代別にみると、図1-4-2のとおりである。

《定住意向》は女性70歳以上が最も高く88.8%、次いで男性50代（84.5%）、男性60代（84.2%）、男性70歳以上（83.2%）、女性60代（81.7%）の順となっている。

就労・就学場所別にみると、図1-4-3のとおりである。

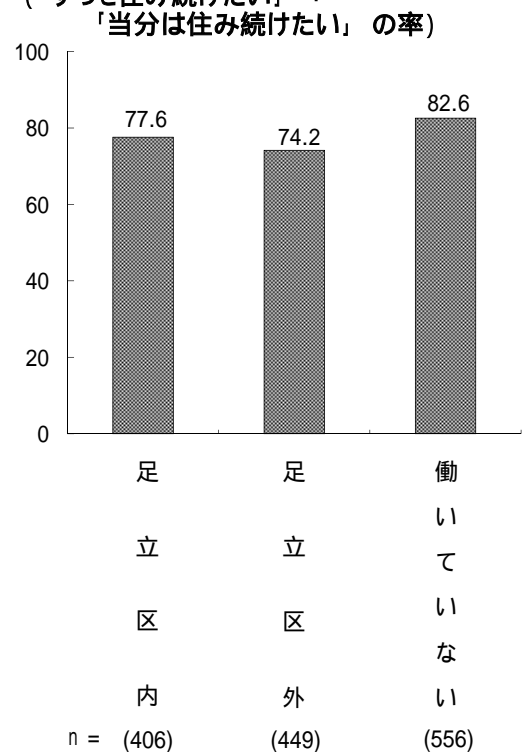
《定住志向》は「働いていない」が最も高く（82.6%）、次いで「足立区内」（77.6%）、
「足立区外」（74.2%）の順となっている。

図1-4-2 定住意向（性・年代別）
（「ずっと住みたい」 + 「当分は住みたい」の率）



男性	n = (49)	(114)	(95)	(97)	(133)	(125)
女性	n = (85)	(152)	(123)	(152)	(191)	(143)

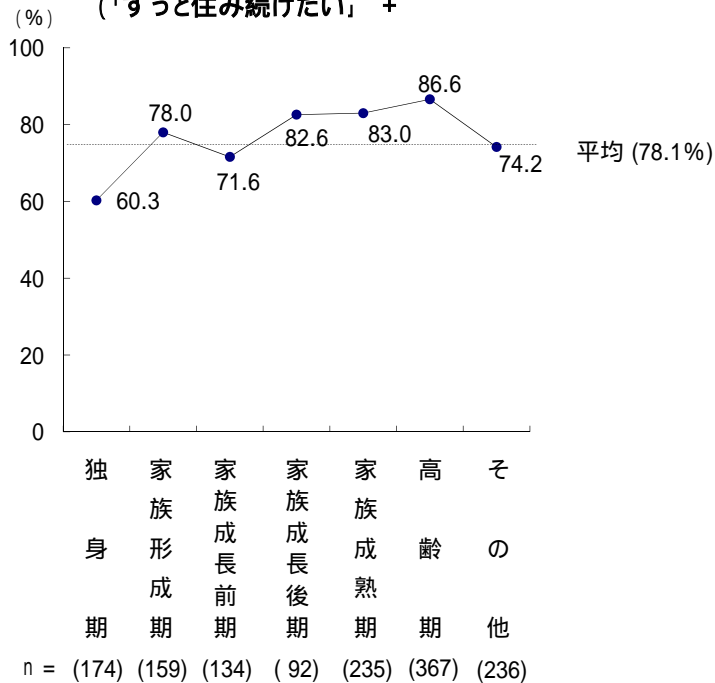
図1-4-3 定住意向（就業・就学場所別）
（「ずっと住みたい」 + 「当分は住みたい」の率）



n = (406) (449) (556)

ライフステージ別にみると、図1-4-4のとおりである。《定住意向あり》の全体平均(78.1%)を上回っているのは、「高齢期」(86.6%)、次いで家族成熟期(83.0%)の順である。一方、全体平均を下回っているのは「独身期」(60.3%)である。

図1-4-4 定住意向 (ライフステージ別)
 (「ずっと住みたい」 +



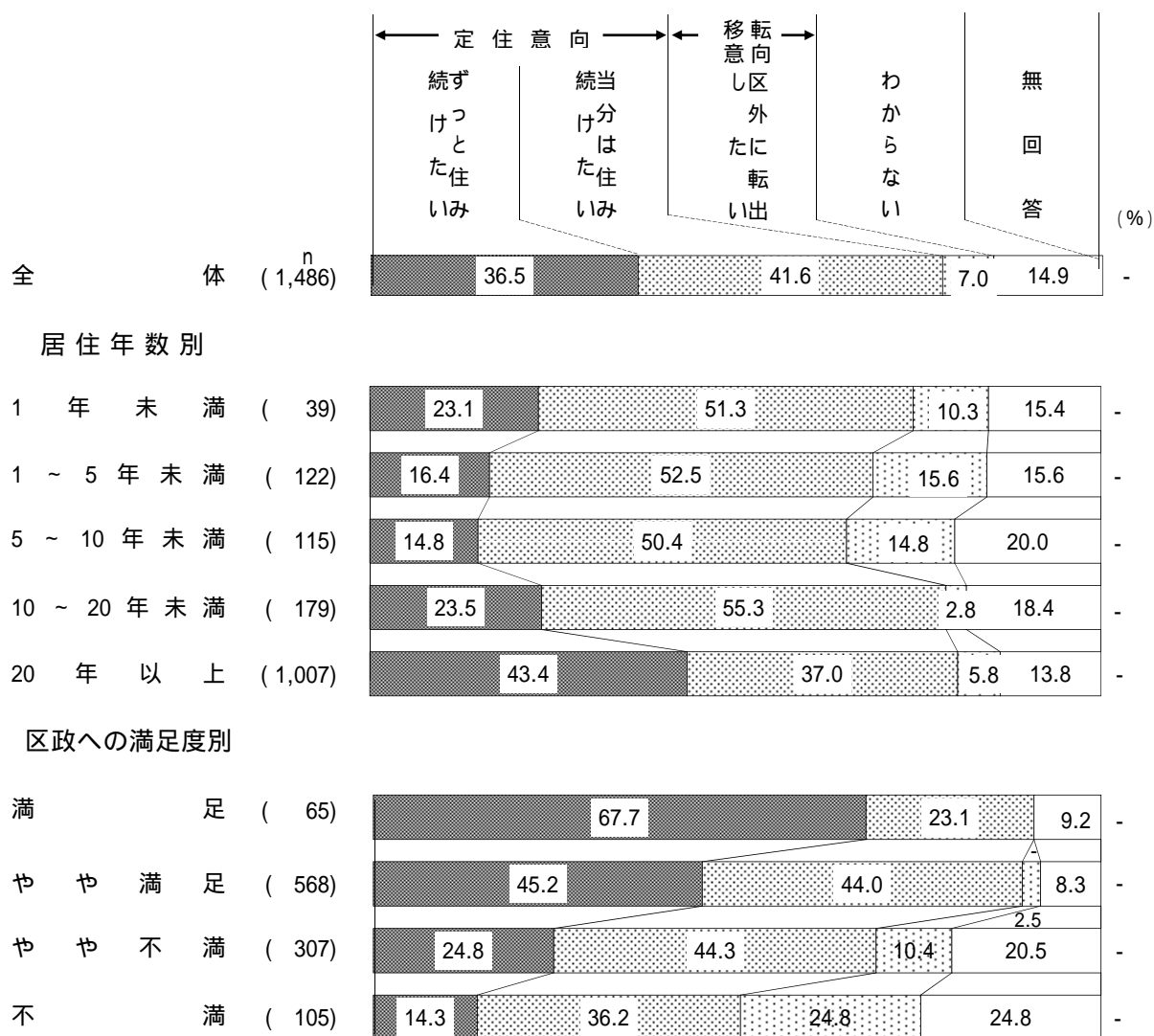
居住年数別にみると、図1-4-5のとおりである。

《定住意向》のうち「ずっと住みたい」が断然高いのは「20年以上」の43.4%である。反対に、低いのは10%台で「1～5年未満」（16.4%）、「5～10年未満」（14.8%）である。

区政への満足度別にみると、満足度が上昇するにつれ、《定住意向》の「ずっと住みたい」も高まっている。

定住・移転意向の推移では、平成16年に比べて「ずっと住みたい」が3.0ポイント上昇している。「当分は住みたい」も1.0ポイント上昇しており、併せて《定住志向》は4.0ポイント上昇している。

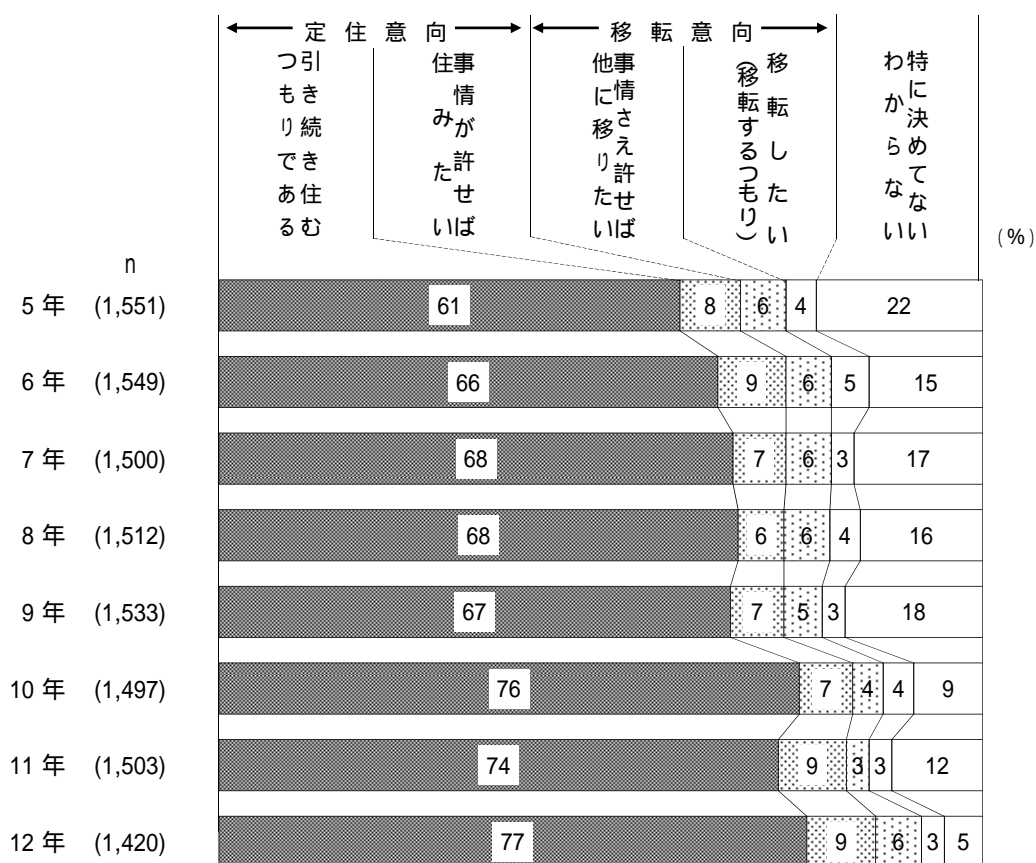
図 1 - 4 - 5 定住意向（居住年数別、区政への満足度別）



参考 定住・移転意向の推移

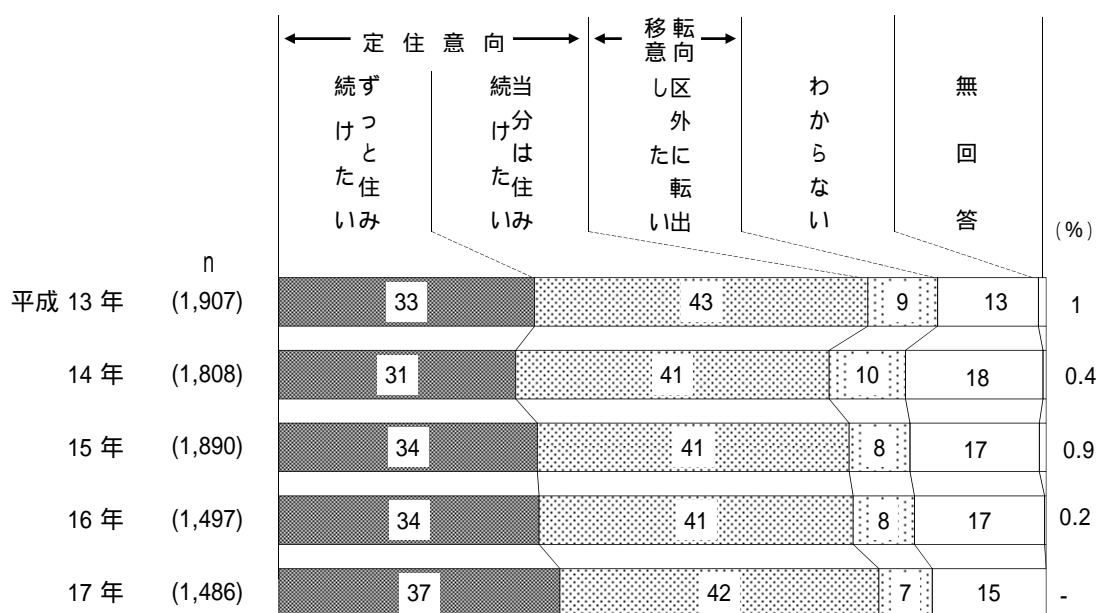
(平成12年まで 訪問面接法)

問 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか。この中から1つお答えください。(は1つ)



(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

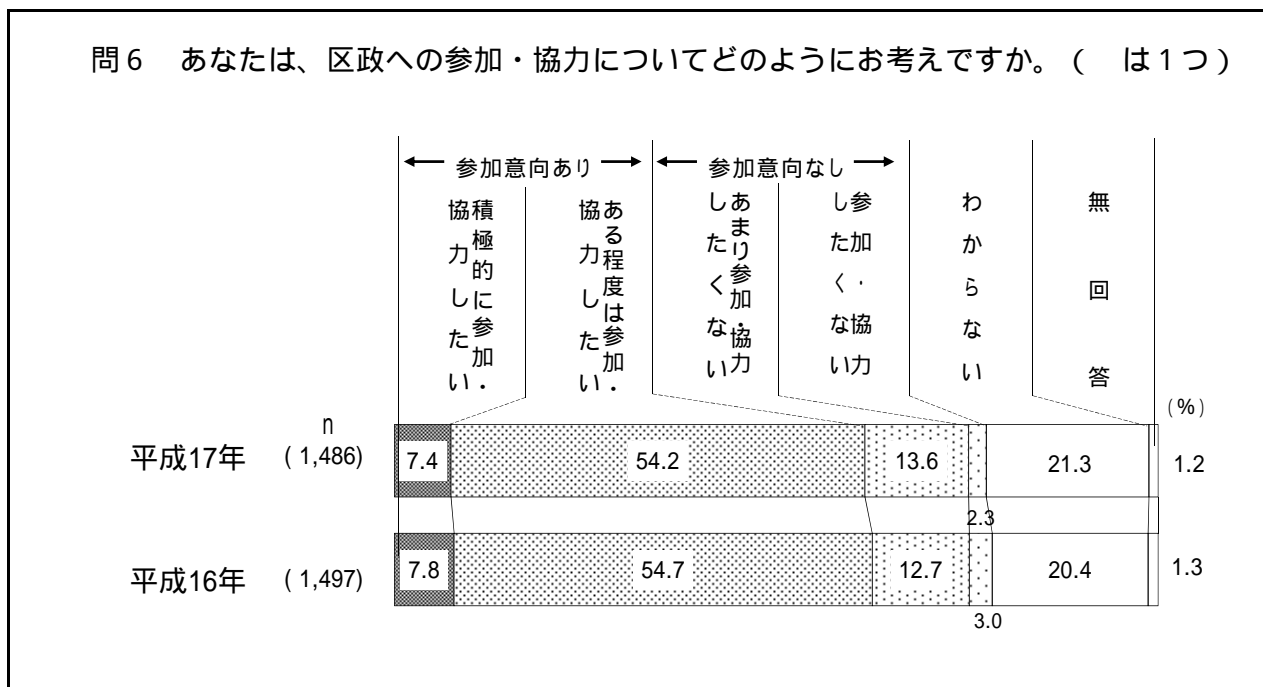
問5 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)



(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(5) 区政への参加

《参加意向あり》がやや下降している



区政への参加・協力について聞いたところ、「積極的に参加・協力したい」(7.4%)と「ある程度は参加・協力したい」(54.2%)を合わせた《参加意向あり》が61.6%であった。なお、「参加・協力したくない」は2.3%である。

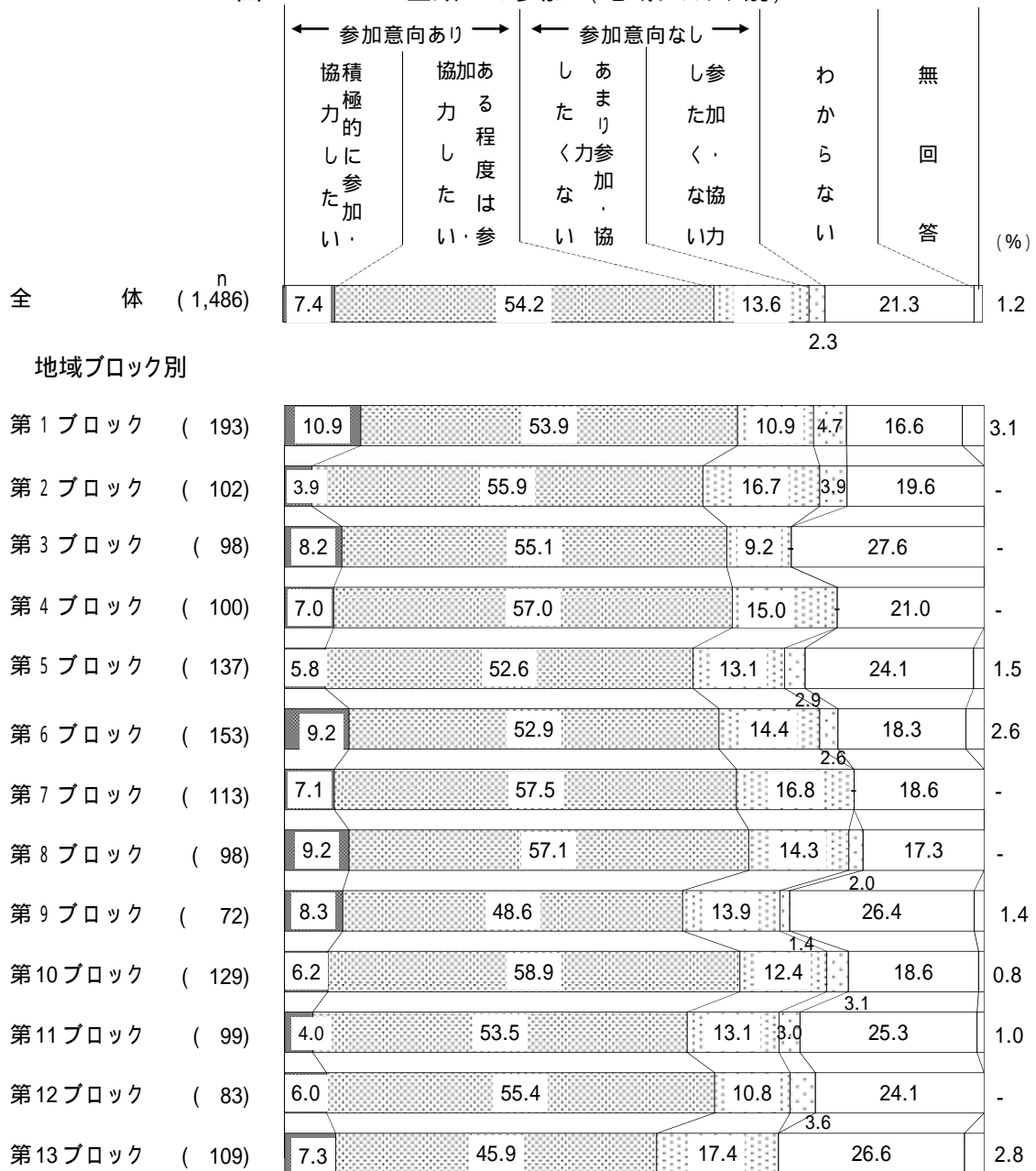
平成16年と比較すると、《参加意向あり》は62.5%から61.6%へ0.9ポイント下降している。

地域ブロック別にみると、図1-5-1のとおりである。

《参加意向》が最も高いのは第8ブロック（66.3%）である。次いで、60%台は第10、第1、第7、第4、第3、第6、第12ブロックの順となっている。

《非参加意向》では、唯一20%台で第2ブロックが（20.6%）である。

図 1 - 5 - 1 区政への参加（地域ブロック別）



ブロック区分



性・年代別にみると、図1-5-2のとおりである。《参加意向あり》が最も高いのは男性70歳以上で71.2%、次いで男性60代が68.5%の順となっている。

図 1 - 5 - 2 区政への参加（性・年代別）

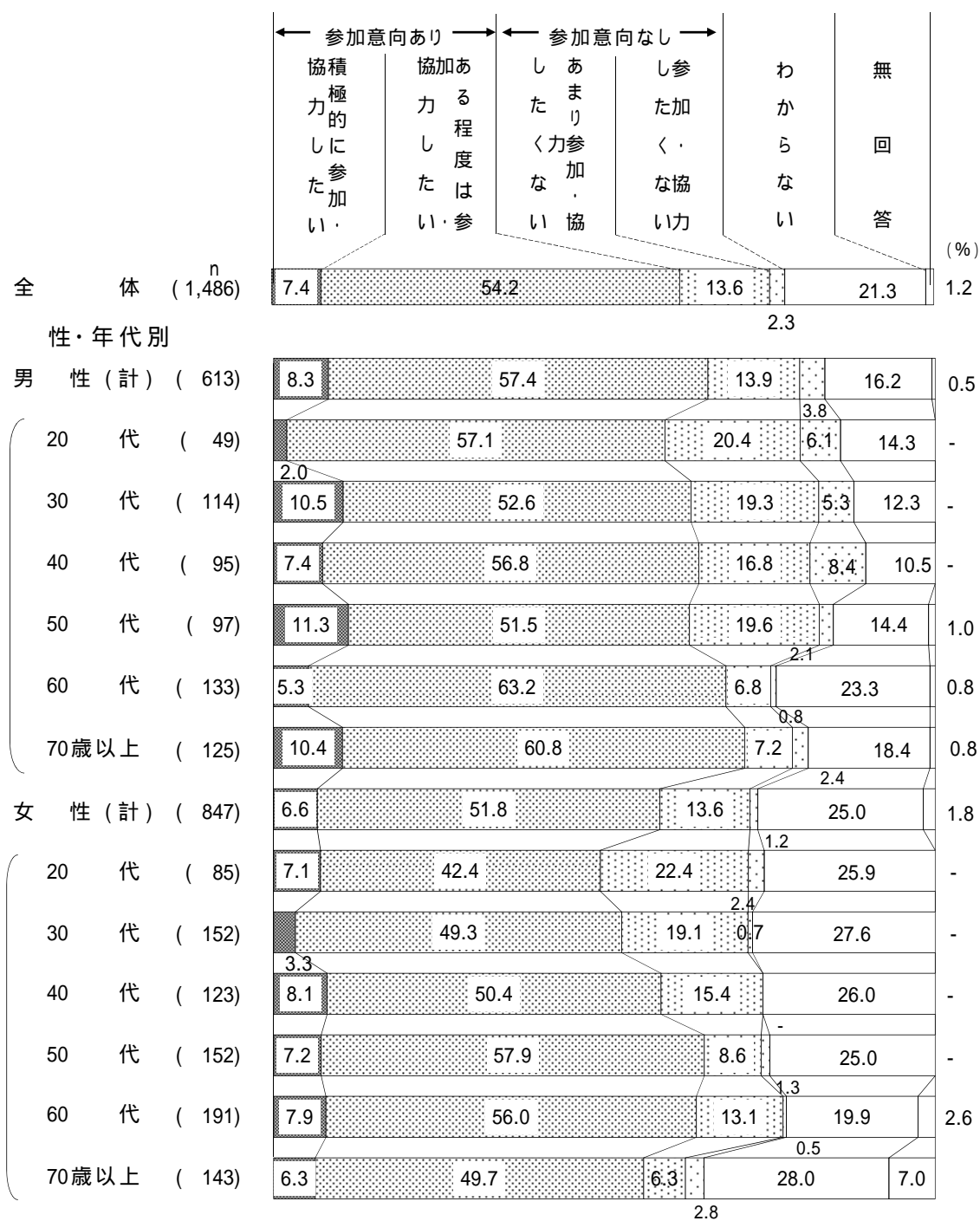
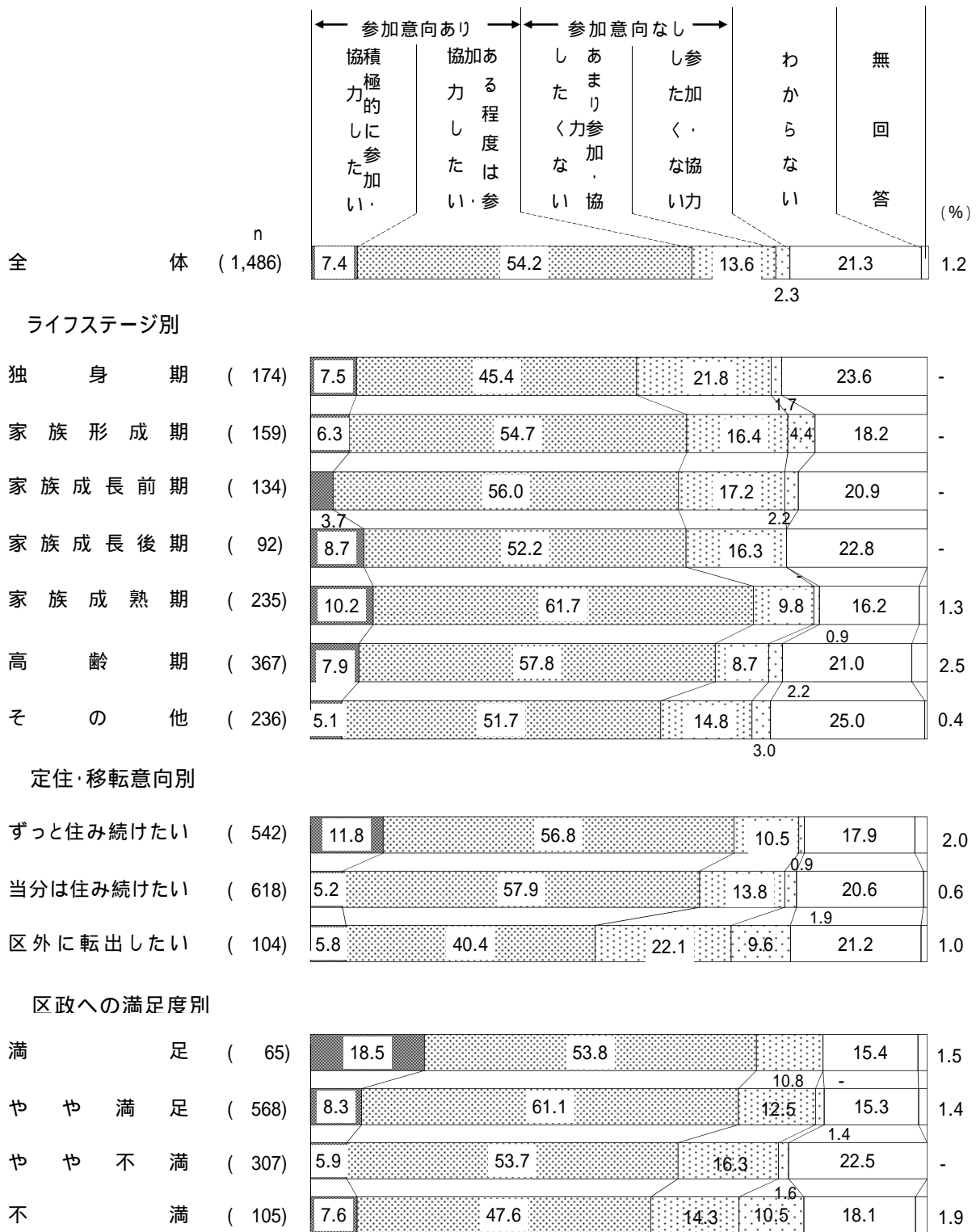


図 1 - 5 - 3 区政への参加（ライフステージ別、定住・移転意向別、区政への満足度別）



ライフステージ別にみると、図1 - 5 - 3のとおりである。《参加意向あり》で最も高いのは、唯一70%台で家族成熟期（71.9%）である。

定住・移転意向別にみると、「ずっと住みたい」では68.6%、「当分は住みたい」では63.1%が《参加意向あり》と回答しており、あまり差がみられないのに対し、「区外に転出したい」人になると46.2%へと低下する。

区政への満足度別にみると、「満足」している人では72.3%が《参加意向あり》と答えているのに対し、「不満」に感じている人では55.2%にとどまっている。

満足度が上昇するにつれ、《参加意向》も高まっていく傾向がみられる。